

JJAOT

The Journal of Japanese Association of Occupational Therapists (JJAOT)

日本作業療法士協会誌

2019

8

【協会諸規程】

- 臨床実習指導施設認定制度規程細則
- 作業療法士学校養成施設のWFOT 認定規程

【協会活動資料】

- 2018年度教育関連認定審査結果
認定作業療法士／専門作業療法士／臨床実習指導者研修修了者／臨床実習指導施設

【連載】

- 第53回日本作業療法学会だより④
- 2019年度専門作業療法士および認定作業療法士の資格認定について
- 認定作業療法士の『臨床実践能力試験』の実施について

重要なお知らせ

表紙ウラ、p.3～7に必ずお目通しください

重要

2019年度に入会した皆さまへ

付帯情報登録のお願い

この度は当協会に入会いただき心より感謝申し上げます。

入会手続きが完了し協会員となった皆様に、次の段階の登録をお願いいたします。この点につきましては、すでに入会手続き完了時にメールもしくは書面にてご案内しております。

入会手続きの際に基本情報（協会からのご案内や連絡を行うための住所やメールアドレス等の情報）を登録いただきましたが、次の段階として**付帯情報の登録**をお願いいたします。

付帯情報は、作業療法士の勤務実態を集計し、国や他団体へ要望活動を行う際の根拠資料や、協会の活動方針を決める指針となる資料の作成に必須の情報となります。会員統計資料は毎年、本誌『日本作業療法士協会誌』（2017年度会員統計資料は本誌第79号（2018年10月発行）p.12～）に掲載しておりますので、協会ホームページ等で是非ご確認ください。

登録にあたっては、下記の手順をご確認ください。

【登録方法について】 ※登録内容に問題があると、エラー内容が表示されます。

- ①日本作業療法士協会ホームページ→会員向け情報→会員ポータルサイト
- ②会員ポータルサイトにログインし、「基本情報変更」をクリック
※パスワードが不明の場合、もしくは入力してもログインできない場合は、「パスワードを忘れた方はこちら」から仮パスワードを申請してください。
- ③基本情報変更→会員情報の閲覧・更新
- ④「個人情報」をクリックし、登録済みの情報の確認と、「必須」と書かれた項目で未入力部分をを入力し、一番下の「送信」をクリック
※現在作業療法士として勤務されておらず勤務施設の登録がない方は、⑥に進む
- ⑤「勤務先」をクリックし、登録済みの情報の確認と、「必須」と書かれた項目で未入力部分をを入力し、一番下の「送信」をクリック
- ⑥会員情報の確認および登録は完了。
※作業療法士として勤務している方は、「勤務先」ページも登録が必ず必要です。
※登録方法にご不明な点がございましたら、お問い合わせください。

会員情報の登録および確認は、入会完了より1ヵ月以内にお済ませください。

情報が登録されませんと、登録情報不備により統計情報委員会が実施する調査の対象となります。

一般社団法人日本作業療法士協会
事務局長 香山 明美
会員管理 霜田・賛田
E-mail : kaiinkanri@jaot.or.jp

JJAOT

日本作業療法士協会誌

CONTENTS

The Journal of Japanese Association of Occupational Therapists (JJAOT)

目次 ● 2019年8月15日発行 第89号

9	ピックアップ	● 協会諸規程
		● 臨床実習指導施設認定制度規程細則
		● 作業療法士学校養成施設の WFOT 認定規程
14		● 協会活動資料
15		● 2018年度 認定作業療法士認定審査結果
16		● 2018年度 専門作業療法士認定審査結果
18		● 2018年度 臨床実習指導者研修修了者認定審査結果
20		● 2018年度 臨床実習指導施設認定審査結果
		● 代議員制について（解説）

事務局からのお知らせ

重要 作業療法士の職域や社会的地位の向上のために、正しい情報が必要です

会員情報の閲覧・更新方法

『研修受講カード』お手元にありますか？

2	協会各部署活動報告 (2019年6月期)
36	生涯教育制度に関する重要なお知らせ
	● 2019年度専門作業療法士および認定作業療法士の資格認定について
	● 認定作業療法士の『臨床実践能力試験』の実施について

22	連載	学会だより④
		● 第53回日本作業療法学会 参加者へのご案内
27		国際部 Information
		● 第53回日本作業療法学会 in 福岡 国際部企画インフォメーション
30		MTDLP実施・活用・推進のための情報ターミナル⑫
	● 次の扉を開く！啓発・普及から定着・展開へ	
32		障害のある人のスポーツへの多様な参加を支援するために③
		● 委員の紹介とアンケートのお願い
34		総合事業5分間講読
		● マネジメントを用いた地域リハビリテーションと町づくり

8	有資格者数に関する計算の誤りに ついて（お詫びと訂正）	43	札幌刑務支所見学会のご案内
13	2019・2020年度部員・委員等一覧 （追加委嘱分）	43	催物・企画案内
26	福岡学会ブース「女性会員の広場」 のご案内	44	学術誌紙媒体の配付希望受付について
28	日台シンポジウム開催のお知らせ	45	地域包括ケアシステム参画の手引き 発行
39	2019年度 協会主催研修会案内	46	日本作業療法士連盟だより
		47	求人広告
		48	編集後記

協会各部署 活動報告

(2019年6月期)

学術部

【学術委員会】事例報告登録制度（一般事例、MTDLP 事例）のシステム一部改修および運営と管理。「疾患別ガイドライン」の編集。作業療法マニュアルの発行と WEB 編集会議開催、地方学会における展示販売。2020 年度課題研究助成制度募集要項作成。

【学術誌編集委員会】学術誌「作業療法」：①第 38 巻第 3 号発行、②査読管理および編集作業、③査読システム導入打ち合わせ会議開催。学術誌「Asian Journal of OT」：査読管理および編集作業。

【学会運営委員会】緊急時対応の手引き作成。優秀演題賞表彰規程作成。第 53 回日本作業療法学会（福岡）：①運営会議開催、②事前参加登録受付、③講師への連絡、④プログラム・会場配置・座長案等の確認およびホームページの更新、⑤プログラム集の編集。第 54 回日本作業療法学会（新潟）：①会場視察および第 1 回会議開催（テーマ、ポスター等の検討）。

教育部

【本部】第 1 回部長・委員長会議の開催。

【養成教育委員会】臨床実習指導者講習会（鳥取会場）の運営。臨床実習指導施設認定制度規則細則の再検討。教員資格研修会議の開催。国家試験問題指針検討班会議の開催、他。

【生涯教育委員会】臨床実習指導者講習会の生涯教育制度への統合修正案の検討。システム開発会議の開催。SIG 実態調査結果の確認と今後の対応についての調整。専門作業療法士分野特定ロジックの確認、他。

【研修運営委員会】2019 年度専門作業療法士取得および認定作業療法士取得研修会。重点課題研修等の開催準備、今年度 e-Learning コンテンツ作成検討会議の開催、他。

【教育関連審査委員会】WFOT 認定等教育水準審査班：リハビリテーション教育評価機構との連携作業。専門作業療法士審査班：2019 年度審査に向けた準備。認定作業療法士審査班：2019 年度第 1 回審査会（6 月 8 日）の開催。臨床実習審査班：2019 年度第 1 回審査会（6 月 15 日）の開催。資格試験班：認定作業療法士取得選択研修の修了試験問題の作成、他。

【作業療法学会書編集委員会】原稿執筆中、他。

制度対策部

【本部】担当理事で、①「精神障害にも対応する地域包括ケアシステムに寄与する作業療法のあり方検討委員会」外部有識者について関連団体と調整。②リハ医療関連団体協議会報酬対策委員会への出席、③リハ専門職団体協議会介護報酬ワーキングへの出席を行った。

【医療保険対策委員会・介護保険対策委員会】①診療報酬・介護報酬情報のホームページ更新。②会員からの制度に関する問い合わせ対応。③医療保険・介護保険モニター調査準備。④精神科モニター調査結果の機関誌・会員ポータルサイトへの掲載。

【障害保健福祉対策委員会】①障害保健福祉領域 OT カンファレンスの準備・広報。②「生活介護事業における作業療法（士）の実践事例集」執筆協力依頼。③児童福祉領域における作業療法意見交換会の準備・広報。④「学校を理解して支援ができる作業療法士の育成研修会（基礎編）」後方支援の調整。⑤「就労支援フォーラム 2019」企画・運営にかかる準備。

【福祉用具対策委員会】①「生活行為工夫情報モデル事業」：事例登録・事例活用に向けた準備。②「福祉用具相談支援システム運用事業」：相談対応等。③「IT 機器レンタル事業」：レンタル受付手配。

広報部

【広報委員会】＜パンフレット＞制度対策部から提出された「生活行為向上リハビリテーション」パンフレットの審査、形式・文言・使用の明確化等意見の取りまとめ。＜ホームページ＞ホームページリニューアルのためのコンペ応募状況の確認。コンテンツの進捗状況確認と検討および校正作業。＜作業療法啓発ポスター＞校正作業のうえ入稿。申込みがあった都道府県士会への発送準備。

【機関誌編集委員会】機関誌 6 月号発行。7 月号校了。8 月以降の企画・進行表等確認。

国際部

【本部】第 1 回国際部長・副部長・委員長会議および国際部会の開催（6 月 15 ~ 16 日）。

【国際委員会】福岡学会における国際シンポジウム・国際部ブース展示の準備。「アジアの作業療法士会の交流会（仮）」の傍聴希望者の募集開始および各国代表者との連絡調整。第 2 回日本・台湾作業療法ジョイントシンポジウムの広報活動。群馬大学でのモンゴル協会長との懇談の準備。機関誌の「国際部 INFORMATION」の企画・執筆。国際動向に関する実態調査の実施（都道府県士会対象）。

【WFOT 委員会】国内外からの就労・移住に関する問い合わせ対応。海外作業療法士による施設見学依頼に対する対応。

災害対策室

第 1 回会議（6 月 16 日）の開催。9 月 25 日実施の大規模災害を想定したシミュレーション訓練実施アンケート。国際医療技術財

団（JIMTEF）への活動協力。大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会（JRAT）活動への協力。災害支援ボランティア登録の随時受付。

47 都道府県委員会

①各ワーキンググループにて委員会に向けた検討、関連部署との調整。②第 2 回 47 都道府県委員会開催に向けての準備。

認知症の人の生活支援推進委員会

①認知症作業療法推進委員からの問い合わせ対応。②手引きおよびアセスメントの改訂作業。手引き作成班会議の開催（6 月 9 日）。③認知症作業療法推進委員会議（11 月 9 ~ 10 日）開催に向けての準備。④日本認知症官民協議会：認知症バリアフリー WG の検討テーマ案の提出。

地域包括ケアシステム推進委員会

①各士会で予定されている研修会への講師派遣対応。②「地域包括ケアシステム参画の手引き～作業療法士に求められる生活行為向上の視点を以て～」の完成、理事会にて報告。③班長会議の開催（WEB 会議：6 月 24 日）。④「2019 年度地域ケア会議および介護予防・日常生活支援総合事業に関する人材育成研修会」開催に向けた準備。

運転と作業療法委員会

①士会協力者への個別問合せ対応と情報配信。②第 2 回会議の開催（WEB 会議：6 月 12 日）。③「作業療法士のための運転と移動手段に関する実践要綱」（仮）の準備。④今年度の協力者会議の準備。⑤重点課題研修の準備協力。⑥全日本指定自動車教習所協会連合会「教習所職員のための高次脳機能障害者への対応マニュアル作成ワーキンググループ」への会議出席。

アジア太平洋作業療法学会誘致委員会

第 1 回委員会の開催（6 月 30 日）。学会テーマの検討。開催都市・会場候補地の選定。学会会期スケジュールおよび予算案の作成。業者選定に向けた仕様書（案）の作成。

障害のある人のスポーツ参加支援推進委員会

協会員・都道府県士会を対象としたウェブアンケート調査の企画。機関誌原稿（8 月号）の執筆。全国障害者スポーツ大会を開催した士会へのヒアリング（岩手県、6 月 24 ~ 25 日）。都道府県障害者スポーツ協会を対象とした郵送調査の企画。

事務局

【財務・会計】2019 年度会費収納。特例再入会期間終了後の対応。2020 年度収入予測および予算配分案の資料作成。

【会員管理】会員の入退会・異動等に関する処理・管理。新入会希望者への振込用紙発送。海外会員への発送。刊行物の戻り処理。パスワード再発行に関する対応。研修受講カードの有料再発行に関する対応。士会員情報と協会員情報のデータ照合作業。

【庶務】三役会・理事会の資料作成・開催補助・議事録作成。社員総会後質疑応答の取りまとめ。理事会報告・回答返信。新コンピュータシステム 2 次開発にかかる業者との打ち合わせ。2019 年度介護ロボットのニーズ・シニア連携協議会全国設置・運営業務事務局業務・事業説明会開催等。非常勤職員の増員のための事務局拡張・整備。

【企画調整委員会】2019 年度事業評価に向けての準備。白書委員会への引き継ぎに向けて白書制作に関する資料の取りまとめ。

【規約委員会】学会に関する規程（改定案）、日本作業療法学会優秀演題賞の表彰に関する規程（案）、日本作業療法学会における緊急時対応の手引き（案）についての検討と理事会への上程。臨床実習指導施設認定制度規程細則（改定案）についての検討。

【統計情報委員会】会員データの整理。

【福利厚生委員会】待遇調査報告の機関誌原稿の作成。

【総会議事運営委員会】2019 年度定時社員総会の結果を理事会に報告。議事録の取りまとめ、機関誌に掲載。

【選挙管理委員会】11 月に実施する代議員選挙の広報、システム業者との打ち合わせ。

【倫理委員会】退会処分となった元会員の再入会にかかる審査の理事会上程および意見書作成。会員・非会員から寄せられた倫理問題事案への対応。

【研究倫理審査委員会】7 月の会議に向けての準備作業。

【生活行為向上マネジメント士会連携支援室】機関誌に掲載する MTDLP 関連情報の検討・原稿作成。

【国内外関係団体との連絡調整】日本作業療法士連盟、厚生労働省、法務省、リハビリテーション専門職団体協議会（リハ 3 団体）、全国リハビリテーション医療関連団体協議会・報酬対策委員会、大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会（JRAT）、チーム医療推進協議会等々との連絡調整・会議参加・事務局運営など（継続）。

事務局からのお知らせ

◎ 2019 年度会費をまだご納入いただけていない皆様へハガキをお送りしました

7 月末までに 2019 年度会費をご納入いただけなかった方へ協会事務局より「会費納入のお願い」ハガキをお送りしています。このまま年度末（2020 年 3 月末）までに年会費のお支払がありませんと会員資格を喪失し、現在の会員番号は使用できなくなり、なおかつ協会在籍履歴、生涯教育受講履歴もすべて抹消されます。また協会に再入会を希望される際は複雑な手続きが必要になりますので、そうならないためにも、早めに会費の納入をお願い致します。

なお、振込用紙を紛失された方、金額が不明な方は協会事務局（kaihi@jaot.or.jp）までお問い合わせください。

◎ご自身の登録情報が最新かどうかをご確認ください！

協会に登録している勤務施設は現在の職場でしょうか。協会より会員所属施設宛に郵送物等をお送りすると、既に退職済みとのことで返送されてくる場合があります。また、発送先を自宅宛とご指定いただいている場合、勤務施設に関する情報が更新されず、古い勤務施設の登録が残ったままになっていることがあります。協会にご登録いただいている施設にその会員が所属しているものと判断しますので、ご自身の登録している勤務施設情報が最新であるかどうかを確認し、もし古い情報のままでしたら修正・更新をお願い致します。

【登録情報の確認方法】

協会ホームページより、会員ポータルサイトにログインし「基本情報変更」で登録情報の確認・修正が可能です。

※パスワードをお持ちでない方、忘失された方はパスワードを再発行することができます（協会ホームページ>会員ポータルサイト>パスワードを忘れた方はこちら）。

◎休会に関するご案内

現在は 2020 年度（2020 年 4 月 1 日～ 2021 年 3 月 31 日）の休会を受付中です。休会制度の詳細および「Q&A」については協会ホームページをご覧ください（協会ホームページ>会員向け情報>Members Info>各種届出>休会制度）。なお、2020 年度の休会を申請する方は 2019 年度の年会費をご納入のうえ、用紙は事務局までご請求ください。その他ご不明な点は協会事務局（kaihi@jaot.or.jp）までお問い合わせください。

重要

作業療法士の職域や社会的地位の向上のために、正しい情報が必要です

正しい情報の更新と確認がされていないと…

その
1

年次統計資料・アンケート調査の信憑性と価値が低下してしまいます。

その
2

国や他団体への要望を行う際の根拠を示すことができなくなります。

その
3

宛先が不明となり、作業療法に関する協会からの情報を、お届けできなくなります。

会員情報が常に最新の状態であるために、
登録情報の更新が必須です。

日本作業療法士協会が集積・管理・活用している 情報と、その更新と確認について

会員情報

会員の方によって常時更新される情報

基本情報

更新

自宅住所・勤務施設

(自宅住所や勤務施設は、協会から送られてくる郵送物の宛名などをご確認ください。)

固定情報

生年月日・OT免許番号・免許取得年・出身校

付帯情報

更新

勤務施設での業務内容

- ・集積した情報を統計情報として集計し、作業療法士の配置状況等について会員統計資料(年次資料)として公開したり、国や他団体への要望を行う際の根拠資料として提示するなどの利用を行っている。
- ・常に統計情報として集計ができるため、月別や必要時の情報として統計資料を作成することも可能。

その他の情報

定期的に事務局で更新

年会費納入状況、会員履歴(役員履歴など)

施設・養成校情報

施設情報責任者によって常時更新される情報

- ・会員情報において、その施設を勤務施設として登録している会員の中から1名施設情報責任者を選任し、施設情報責任者がその施設の情報について閲覧・修正登録を行う。
- ・施設情報責任者が登録した情報は、会員所属施設名簿に表示され、会員が検索することができる。
- ・集積情報は、会員情報の[付帯情報]に表示され、その施設で取得している診療報酬等の中から会員が業務として関わっている項目を選択する方式となる(2019年度予定)。

アンケート調査回答による情報

対象者が回答した情報

- ・対象となる会員もしくは会員所属施設へ、制度に関する調査などをWEBや書面で実施している。
- ・付帯情報で登録された情報を基にアンケート調査先を選定している。

会員情報の閲覧・更新方法

ログイン画面の入り口



・日本作業療法士協会ホームページ>上部「会員ポータルサイト」
もしくは、

・日本作業療法士協会ホームページ>上部「会員向け情報」>「会員ポータルサイト」

上記の手順でログイン画面にアクセスできます

ログイン画面



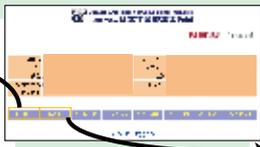
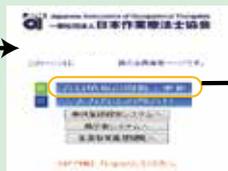
←会員番号とパスワードを入力し、「ログイン」をクリック

パスワードが不明の場合は・・・→



「パスワード再発行」画面から申請できます。申請には2018年度電子会員証もしくは研修受講カードが必要です。

会員ポータルサイト マイページ→基本情報変更



←「個人情報」
「勤務情報」→

各ページを開き、登録されている情報に不備がないか（赤くなっている項目）、最新の情報が登録されているか確認し、更新します。

※ページを移動するときは必ず「送信」をクリックしてください。



会員ポータルサイト
マイページに
戻ります



作成：2018年4月

※一部改修により画面に変更が生じている場合がございます。

『研修受講カード』お手元にありますか？

事務局・教育部

皆様のお手元に『研修受講カード』はありますか？

2017年度(2018年3月末日)までに入会した方には、2018年度の会費納入状況にかかわらず2018年4月より順次発送し、2018年度から入会した方には、入会手続き終了後に送付しております。

事務局への問い合わせメールを見ると会員証と混同されている方が多くいらっしゃるようです。『研修受講カード』は、これまで毎年発行していた会員証とは違い、1度きりの発行です。当協会会員である期間はずっと持っていただくカードです。

紛失等による再発行は可能ですが、再発行は有料となります。紛失しないよう大切に保管し管理をお願いします。

定款施行規則 改定 (一部抜粋)

(電子会員証)

第7条 会長は、入会を承認した正会員及び以後毎年度会費を納入した正会員に対して別図第2の電子会員証を交付し、会員ポータルサイト上に掲載するとともに印刷可能な状態に置く。

(研修受講カード)

第8条 会長は、入会を承認した正会員に対し、原則として1回のみ別図第3の研修受講カードを交付する。



別図第2 (電子会員証)



(表)



(裏)

別図第3 (研修受講カード)

●研修受講カードとは？

- ①研修会へ持参し、受付に提示することでバーコード読み込みが行われ、参加受付ができます(順次、対象研修会拡大予定)。将来的には、研修受講カードを研修会時に読み取ることで生涯教育制度のポイント登録が自動的に行えるようになります(2020年度導入予定)。
- ②会員ポータルサイト ログインパスワードの発行に使用します。これまで、パスワードの発行は郵送受付のみで、お手元に届くまで時間がかかりましたが、研修受講カードに印字されている番号で本人確認を行い、仮パスワードが即時発行されます。

●会員証との違いについて

2018年度より、会員証は電子化されました。電子会員証は当協会にて当該年度の会費納入確認後に会員ポータルサイト内で表示・印刷ができます。

当該年度の会費を納めたことを証明するのが会員証であり、会員証には、年度の記載と有効期限が表示されています。また改姓のお届けがあった場合は、手続き終了後に改姓後のお名前に変更されます(ポータルサイトでの変更の場合は、翌稼働日に反映されます)。

2019年4月1日以降は、事務局で2019年度会費の納入を確認できた後に、表示・印刷が可能となります(2019年3月31日までに事務局で会費の納入を確認できた方には、2019年4月1日より2019年度の会員証が表示されます)。

電子会員証には研修受講カードと同じバーコードも表示されていますので、研修受講カードの代わりとしても使用可能です。ただし、会費の納入方法によって、入金確認作業に数日から2週間程度の日数がかかりますのでご注意ください。

●研修受講カードの再発行方法

申請書と再発行手数料1,500円が必要です。

協会ホームページの教育部生涯教育委員会ページに再発行の手続き方法を掲載していますので、そちらをご覧ください。協会事務局までお問い合わせください。

当協会は会員番号で皆さまの情報を管理しているため、婚姻等による改姓の場合でも、発行時のカードをそのままご利用することをお願いしております。改姓による再発行を希望される場合も、再発行手数料がかかりますのでご注意ください。

有資格者数に関する計算の誤りについて (お詫びと訂正)

本誌の奥付に毎号、作業療法士の「有資格者数」、またそれに基づく「確定組織率」等の数値を掲載しております。もとよりここに掲載している「有資格者数」は国の公表によるものではなく、当協会が独自に算出したもので、「過去の国家試験合格者数を単純に累計した数に、本会が把握し得た限りでの外国で取得した免許から日本国免許へ切り換えた者を加え、死亡退会者数を除いた数として示していますが、免許証の未登録、取り消し、本会が把握し得ない死亡その他の理由による消除の結果生じた減数分は算入されていません」。

このような限定付きの「有資格者数」の掲載ではありますが、第74号(2018年5月発行)以降の奥付に掲載された数値に計算上の誤りがあったことが判明いたしました。会員の皆様にご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げますとともに、原因を明らかにし、数値を下記のとおり訂正させていただきます。なお、今号より修正した正しい数値を掲載しております。

本誌の奥付には、2つの「有資格者数」が掲載されています。

■〇〇年度の確定組織率

〇〇% (会員数〇〇名 / 有資格者数〇〇名) …… 「**確定有資格者数**」

■〇〇年〇月〇日現在の作業療法士

有資格者数 〇〇名 …… 「**暫定有資格者数**」

会員数 〇〇名

：

確定有資格者数とは、前年度の確定有資格者数に、当年の国家試験合格者数と、協会が把握し得た当年度中の「外国で取得した免許から日本国免許へ切り換えた者」(以下、外免と略す)の数を加え、協会が把握し得た当年度中の死亡者を減じた人数です。

これに対して、**暫定有資格者数**とは、まだ年度の途中で、暫定的に示している当年度の有資格者数であり、前年度の確定有資格者数に、当年の国家試験合格者数を加えただけの人数であって、外免数を加えたり、死亡者を減じたりはしていません。

この確定有資格者数と暫定有資格者数の考え方が混乱し、計算の誤りが生じてしまいました。以下に正誤表とその計算過程をお示します。

正誤表

掲載号	該当項目	誤	正
第74号～第85号 (2018年5月～2019年4月)	① 2017年度の確定有資格者数	84,947名	84,946名
	② 2018年度の暫定有資格者数	89,717名	89,731名
第86号～第88号 (2019年5月～2019年7月)	③ 2018年度の確定有資格者数	89,717名	89,724名
	④ 2019年度の暫定有資格者数	94,241名	94,255名

① 2017年度の確定有資格者が誤って「84,947名」と掲載されていましたが、正しくは「84,946名」でした。1名多く表示してしまった原因は、協会が把握し得た外免数がこの年度中1名だったにもかかわらず、誤って重複して加算してしまったことにあります。

<誤> 84,947名

<正> 84,946名

② 2018年度の暫定有資格者数は、①で示した前年度確定有資格者数(84,947名)が誤っていたうえに、これに当年の国家試験合格者数(4,785名)を加えたあと、2017年度中の死亡者(15名)を差し引いてしまいました(89,717名)。しかし正しくは、前年度の確定有資格者数(84,946名)に、当年の国家試験合格者数(4,785名)を加えた人数(89,731名)のみを掲載すべきでした。

<誤> $84,947 + 4,785 - 15 = 89,717$ 名

<正> $84,946 + 4,785 = 89,731$ 名

③ 2018年度の確定有資格者数として、2018年度の誤った暫定有資格者数(89,717名)をそのまま引き写していましたが、正しくは前年度の確定有資格者数(84,946名)に、当年の国家試験合格者数(4,785名)と、協会が把握し得た2018年度中の外免数(3名)を加え、協会が把握し得た2018年度中の死亡者(10名)を減じた人数(89,724名)でなければなりませんでした。

<誤> 89,717名

<正> $84,946 + 4,785 + 3 - 10 = 89,724$ 名

④そして2019年度の暫定有資格者数は、2018年度の誤った確定有資格者数(89,717名)をもとに国家試験合格者数(4,531名)を加えただけでなく、再度2018年度中の外免数(3名)も加え、2018年度中の死亡者(10名)を減じた数(94,241名)を示してしまいましたが、正しくは、2018年度の確定有資格者数(89,724名)に2019年の国家試験合格者数(4,531名)を加えた人数(94,255名)とすべきでした。

<誤> $89,717 + 4,531 + 3 - 10 = 94,241$ 名

<正> $89,724 + 4,531 = 94,255$ 名

臨床実習指導施設認定制度規程細則は 2018 年度第 5 回定例理事会（2018 年 12 月 15 日開催）で一度改定されましたが、その後、改正された理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則において、臨床実習指導者の実務経験年数の変更および厚生労働省指定臨床実習指導者講習会の主催団体の変更などが生じ、さらに細部の改定が必要となりました。

赤字=加筆箇所

青字=削除箇所

一般社団法人 日本作業療法士協会

臨床実習指導施設認定制度規程細則

2013 年 10 月 19 日

2018 年 12 月 15 日

2019 年 7 月 19 日

(目 的)

第 1 条 本細則は、一般社団法人日本作業療法士協会臨床実習指導施設認定制度規程の施行にあたり、必要な事項を定める。

(申請要件)

第 2 条 臨床実習指導施設認定の申請資格は、下記項目のすべてを満たしていることとする。

(1) 各養成校と臨床実習施設承諾書を取り交わし、厚生労働省もしくは文部科学省に臨床実習施設として届けられている施設であること。

(2) 免許を受けた後 5 年以上業務に従事した者であり、かつ次の①～③のいずれかを満たした作業療法士が常勤していること。

①厚生労働省が指定した臨床実習指導者講習会(日本作業療法士協会主催)を受講し修了した者

②厚生労働省及び公益財団法人医療研修推進財団が実施する理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会を受講し修了した者

③一般社団法人日本作業療法士協会が実施する臨床実習指導者中級・上級研修を受講し、臨床実習指導者研修修了認定を受けている者

*但し、③については、2019 年度の審査に

限り、免許を受けた後 3 年以上業務に従事した常勤作業療法士でも可とする。

(3) 申請年度において過去 5 年間で 3 年以上総合臨床実習指導を行なっている施設であること。

(4) 臨床実習指導体制（組織）が明確化され、別表 1 に示す確認項目が全て実施されていること。

(申請手続き)

第 3 条 臨床実習指導施設認定の申請をする場合、施設代表者は以下の書類を本会に提出する。

(1) 作業療法士臨床実習指導施設認定申請書（別記第 1 号様式）

(2) 総合臨床実習指導受け入れの養成校名が確認できる臨床実習指導証明書の写し

(3) 臨床実習指導体制（組織）確認表（別表 1）

(4) 返信用封筒（レターパック）

(資格更新要件)

第 4 条 更新申請要件は、第 2 条に準ずる。

(資格更新手続き)

第 5 条 更新申請の手続きは、第 3 条に準ずる。

(細則の変更)

第 6 条 この細則は、理事会の決議によって変更することができる。

附 則

- 1 この細則は、2013年10月19日から施行する。
- 2 この細則は、2019年4月1日から一部改定により施行する。
- 3 この細則は、2019年7月19日から一部改定により施行し、2019年4月1日から適用する。

別表1 臨床実習指導体制（組織）確認表
別記第1号様式 作業療法士臨床実習指導施設認定申請書

別表1（第2条第4号、第3条第3号関係）

臨床実習指導体制（組織）確認表

臨床実習受け入れ体制	<input checked="" type="checkbox"/>	以下の内容が含まれる
臨床実習の意義や目的を理解し、リハビリテーション部門及び作業療法部門として組織的に臨床実習を受け入れ、業務としての位置づけが明確である	<input type="checkbox"/>	臨床実習受け入れの調整担当者がある
	<input type="checkbox"/>	臨床実習受け入れの調整会議を開催している
	<input type="checkbox"/>	臨床実習指導に関する会議を開催している
	<input type="checkbox"/>	臨床実習に関わる関係部門との連絡と調整を行っている
臨床実習指導者の育成		以下の内容が含まれている
後輩の育成・指導の必要性を理解し、適切な指導ができる指導者の育成を目指している	<input type="checkbox"/>	臨床実習指導に関する研修等への参加を計画的に進めている
	<input type="checkbox"/>	臨床実習指導者会議への参加と報告をしている
	<input type="checkbox"/>	臨床実習指導者を指導する体制が整っている

確認作業療法士名：

別記第1号様式（第3条第1号関係）

作業療法士臨床実習指導施設認定申請書（新規・更新）

申請日： 年 月 日 印

一般社団法人日本作業療法士協会 御中
申請施設名：
施設代表者名：

作業療法士臨床実習指導施設認定について以下の通り資料を添えて申請します。

記

1. 作業療法士代表者名：
会 員 番 号：
2. 厚生労働省指定の臨床実習指導者講習会（日本作業療法士協会主催）、厚生労働省及び公益財団法人医療研修推進財団が実施する理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会のいずれかを受講し修了している者、もしくは一般社団法人日本作業療法士協会が実施する臨床実習指導者中級・上級研修を受講し臨床実習指導者研修修了認定を受けている者の氏名と会員番号（常勤職員に限る）

3. 臨床実習指導体制（組織）
○別紙「臨床実習指導体制（組織）」の項目についてチェックし本申請書に添える
4. 申請年度以前3年間のうち3年間以上の総合臨床実習指導受け入れ養成校名

総合臨床実習指導年度	総合臨床実習指導養成校名	受入れ数
5. 日本作業療法士協会ホームページでの臨床実習指導施設認定の開示（いずれかを☑）
 可 不可

注：総合臨床実習とは6週間以上の臨床実習を指す。
 注：指導の養成校名が確認できる臨床実習指導証明書を添付する。
 注：2・4については同様の内容が確認できるもので代用して構わない。
 注：5では2の臨床実習指導者研修（中・上級）修了者名も開示されます。

作業療法士学校養成施設の WFOT 認定は、これまでは当協会の事業年度（4月1日～翌年3月31日）に従って実施・管理されてきましたが、WFOT の事業年度が1月1日～12月31日であることから、WFOT と日本とでは認定期間に3ヵ月のズレが生じてしまいます。この年度のズレを正すとともに、認定校の卒業生に不利が生じないようにするため、年度の考え方を WFOT に合わせる運用をまいりました。このたび規程を改定し、運用を明記しました。

赤字＝加筆箇所

青字＝削除箇所

一般社団法人 日本作業療法士協会

作業療法士学校養成施設の WFOT 認定規程

1988年3月13日
1996年6月5日
2002年9月21日
2004年7月17日
2008年8月16日
2015年7月18日
2019年7月19日

(目的)

第1条 この規程は、定款施行規則第28条に基づいて本会が行う作業療法士学校養成施設の World Federation of Occupational Therapists (WFOT) 認定に関して、その業務が円滑に行われることを目的として定める。

(認定基準)

第2条 認定の基準は、WFOT が定める Recommended Minimum Standards for the Education of Occupational Therapists (作業療法士教育の最低基準に関する勧告) によるものとする。

(審査業務)

第3条 審査の業務は教育部教育関連審査委員会 WFOT 認定等教育水準審査班において行う。

(審査手順)

第4条 会長は、教育部教育関連審査委員長を通じて様式1により、国内の作業療法士学校養成施設に対して施設概況の報告書の提出を求める。報告書の様式は様式2に従うものとする。

2. 教育部教育関連審査委員長は、応募のあった学校養成施設について、WFOT 認定等教育水準審査委員の中から審査委員3名を指名し、概況報告書の審査を委任する。審査委員は再任を妨げない。

3. 各審査委員は、審査の結果を様式3に記入する。この際もし現地審査の必要が認められれば、審査委員はそれを行うことができる。

4. 教育部教育関連審査委員長は、審査委員が提出した審査記録に基づき最終判定を行う。この判定は様式4に記入する。

(理事会の承認)

第5条 前条の判定は理事会の承認を受けなければならない。

(有効期限)

第6条 認定の期限は5年とする。

2. 発効年度は概況報告書が提出された翌年度(1月1日)からとする。

(再審査)

第7条 会長は教育部教育関連審査委員長を通じて、すでに認定されている学校養成施設に対し、有効期限の限度内に、当該時点における概況報告書の提出を求める。

2. 再審査の手続きは第4条に準じる。

3. 理事会の承認は第5条に準じる。

4. 有効期限は第6条に準じる。

(学校養成施設への通知)

第8条 会長は教育部教育関連審査委員長を通じて、当該学校養成施設に対し、概況報告書の提出

があった日から6カ月以内に、審査若しくは再審査の結果を様式5 A又は5 Bにより通知する。

(WFOT への報告)

第9条 会長は、WFOT 日本代表を通じて、認定を受けた学校養成施設の名簿を WFOT に提出する。

(資料の保管)

第10条 概況報告書その他の資料は事務局において保管する。但し、概況報告書の添付資料は保管しなくてもよい。

(規程の変更)

第11条 この規程は、理事会の議決がなければ変更できない。

2. 旧「WFOT 学校認可委員会規程」によりすでに認可を受けている養成施設は、本規程にかかわらず、旧規程による認可の有効期限が引き続き有効であるものとみなす。

3. この規程は、1996年7月1日から一部改正のうえ施行する。

4. この規程は、2002年9月23日から一部改正のうえ施行する。

5. この規程は、2004年7月17日から一部改正のうえ施行する。

6. この規程は、2009年4月1日から一部改正のうえ施行する。

7. この規定は、2015年7月18日から一部改正のうえ施行する。

8. この規定は、2019年7月19日から一部改正のうえ施行する。

付 則

1. この規程は1988年4月1日から施行する。

(様式4)

**作業療法士養成施設の審査に関する
最終判定**

作業療法士養成施設 _____ の概況について、
審査委員の会において審査記録を検討した結果、当該養成施設は日本作業療法士協会
および世界作業療法士連盟 (WFOT) の教育基準を

A. 満たしている
B. 満たしていない

ものと判定する。
なおこの判定の有効期限は _____ 年 _____ 月 _____ 日 から _____ 年 _____ 月 _____ 日 ま
でとする

_____ 以上

_____ 年 _____ 月 _____ 日
教育関連審査委員会委員長 _____ 印

上記の判定は _____ 年 _____ 月 _____ 日の理事会において承認された付で理
事会承認を受けたことを証明する。

_____ 年 _____ 月 _____ 日 会長 _____ 印

(様式 5A)

日作協発 第 号
年 月 日

(作業療法士学校養成施設名) 様
(施設長)

一般社団法人日本作業療法士協会
会長 (名) 印

日本作業療法士協会および世界作業療法士連盟 (WFOT) への
学校名登録について (報告)

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、さきにご提出いただいた貴校の概況報告書を検討した結果、貴校は日本作業療法士協会および世界作業療法士連盟 (The World Federation of Occupational Therapists, WFOT) の「作業療法士教育の最低基準」の条件を満たしていることが認められましたのでご通知します。
これにより、貴校を日本作業療法士協会の認定校として登録します。また、この結果は WFOT 本部に報告しますので、貴校は WFOT 認定校となります。
なお、本認定の有効期限は、年 月 日 から 年 月 日 までです。
貴校のますますのご発展を祈念申し上げます。

敬具

2019・2020 年度部員・委員等一覧

本誌 7 月号にて 2019・2020 年度の部員・委員等の名簿を掲載したが、その後追加で下記の委員委嘱が承認されたため報告する。

全書編集委員会	
委員長	陣内 大輔 (1653)

選挙管理委員会	
	斉藤 毅 (35025)
	鈴木 嘉子 (17341)
	八木 正樹 (38583)
	清水 翔鳥 (39090)
	山崎 悠貴 (32395)
	朝倉 文子 (18272)

白書委員会	
	宮口 英樹 (4693)
	藤井 浩美 (1177)
	三澤 一登 (1338)
	大庭 潤平 (8129)
	宇田 薫 (3515)
	清水 兼悦 (2755)

[奈良]	前岡 伸吾	木納 潤一	坪内 善仁	南 庄一郎	
[和歌山]	大谷 真寿美	寺本 千秋	畠山 泰志	齋藤 みのり	
[鳥取]	浜岡 憲二	北山 朋宏	辻村 肇		
[岡山]	北山 順崇	西出 康晴	初鳥 日美	楠原 敦子	里見 史義
	米井 浩太郎	山下 徹郎	平田 淳也	吉村 学	安部 大昭
	中澤 太志				
[広島]	藤井 佳恵	花岡 秀明	丹羽 敦	小榮 浩次	金子 史子
	高島 千敬	山根 伸吾			
[山口]	青木 久美子	中村 敏浩	谷岡 三千代	和久 美恵	上野 祥志
	梶田 芳徳	大田 茂臣	森脇 善幸	瀬戸 皓介	
[徳島]	上田 裕久				
[香川]	多田 晃平	熊谷 強			
[愛媛]	山本 太一	吉田 弘輝	樋田 夏子	亀岡 一敏	高岡 宏
	川崎 祐太郎				
[高知]	稲富 惇一				
[福岡]	吉野 実	村上 公照	松田 隆治	佐野 幹剛	手島 智康
	河野 修	平岡 敏幸	坂下 竜也	青山 克実	吉岡 奈々
	木村 太郎	木下 亮平	柳 誠	松葉 幸典	
[佐賀]	山口 洋一	井上 順一	中倉 孝行	植田 友貴	
[長崎]	上村 真紀	栗原 由喜	戸田 皓之	秋山 謙太	
[熊本]	高木 勝隆	安田 大典	淵野 浩二	西山 彰浩	
[大分]	佐藤 浩二	彌田 剛	篠原 美穂		
[宮崎]	芝 圭一郎	前田 翔吾			
[沖縄]	田村 浩介				

以上 282 名

2018 年度 専門作業療法士認定審査結果

(2019 年度定時社員総会時提示資料)

以下の会員を 2018 年度に専門作業療法士として認定したことを公示する (太字は新規取得者)。

[福祉用具]	佐藤 真一 (福 島)	田中 勇次郎 (東 京)	松本 琢磨 (神奈川)
	寺田 佳世 (石 川)	濱 昌代 (石 川)	林 正春 (静 岡)
	山田 隆人 (大 阪)	嶋下 賢一 (福 岡)	松元 義彦 (鹿児島)
[認知症]	池田 望 (北海道)	長倉 寿子 (東 京)	守口 恭子 (東 京)
	駒井 由起子 (東 京)	明福 真理子 (石 川)	久野 真矢 (広 島)
	西田 征治 (広 島)	仙波 梨沙 (佐 賀)	
[手外科]	越後 歩 (北海道)	佐藤 彰博 (青 森)	白石 英樹 (茨 城)
	阿部 薫 (東 京)	志水 宏行 (神奈川)	大森 みかよ (神奈川)
	奥村 修也 (神奈川)	大山 峰生 (新 潟)	藤目 智博 (新 潟)
	西村 誠次 (石 川)	中山 幸保 (福 井)	原田 康江 (静 岡)
	岡野 昭夫 (愛 知)	谷村 浩子 (京 都)	西出 義明 (大 阪)
	渡邊 政男 (大 阪)	蓬萊谷 耕士 (大 阪)	櫛邊 勇 (兵 庫)
	飯塚 照史 (奈 良)	田崎 和幸 (長 崎)	野中 信宏 (長 崎)
[特別支援教育]	佐々木 清子 (東 京)	嶋下 加奈子 (静 岡)	辻 薫 (大 阪)
[高次脳機能障害]	菅原 光晴 (東 京)	早川 裕子 (神奈川)	石井 文康 (愛 知)
	原 麻理子 (福 岡)		
[摂食嚥下]	塚田 徹 (福 島)	神作 一実 (埼 玉)	寺本 千秋 (和歌山)
	嶋下 賢一 (福 岡)	植田 友貴 (佐 賀)	
[訪問]	松澤 良平 (東 京)	小林 大作 (和歌山)	
[がん]	三浦 裕幸 (青 森)	藤井 洋有 (群 馬)	
[就労支援]	馬場 順子 (神奈川)		

以上 55 名

2018年度 臨床実習指導者研修修了者認定審査結果

(2019年度定時社員総会時提示資料)

以下の会員を2018年度に臨床実習指導者研修修了者として認定したことを公示する。
※会員番号順

中村 伴子	長辻 永喜	山田 孝	田中 勇次郎	中村 春基	宮内 順子	村岡 孝久	辻 薫	高田 美由紀	川上 千鶴子
中島 雪彦	大場 よし子	川原 薫	吉田 真理子	榎澤 直美	作田 清子	山口 隆司	吉川 ひろみ	近藤 知子	中原 留美子
藤田 しのぶ	浅生 弘美	大黒 一司	伊藤 恵美	佐藤 善久	神作 一実	藤井 浩美	青木 久美子	松元 義彦	村上 公照
津田 勇人	大島 隆一郎	長岡 進一	林 敦美	鈴木 由美	岩間 孝暢	寺田 住世	鷹野 悦子	梅村 寿美子	大野 英子
渡邊 雅行	野田 和恵	谷村 浩子	日田 勝子	陣内 大輔	池之上 守治	大谷 真寿美	矢野 孝久	宗近 眞理子	赤松 智子
渡邊 紀子	石井 孝弘	大西 真二	濱 昌代	橋本 昌弘	中村 眞理子	小賀野 操	加藤 寿宏	三沢 幸史	向 文緒
林 義巳	井戸 佳子	小林 毅	石橋 英恵	小川 友美	連川 恵	赤松 泰典	細川 康紀	木村 順子	大橋 幸子
仙石 泰仁	竹田 敦子	森本 誠司	高橋 由美	横田 剛	横田 剛	加福 隆樹	渡辺 展江	石谷 典一	吉田 文
谷岡 三千代	窪田 高志	矢田 兼つり	坂上 哲可	大井 博司	立石 修康	佐藤 健一	中川 正己	中嶋 耕一	吉波 美穂子
竹内 美保	津輪 元 修一	清水 兼悦	武藤 多鶴子	酒井 里美	田中 泰江	大下 伸子	中村 昌子	大場 英一	中村 直子
花井 弘和	東川 邦和	江戸 晶子	立松 麻記子	工藤 咲子	田中 志万子	香田 砂織	三宅 環	目取 眞恵子	柿崎 貴浩
安岡 仁美	土肥 繁樹	新川 寿子	谷口 敬道	坂上 眞理	桐山 由利子	田口 厚子	田河 和代	新岡 美樹	中島 美和
渡辺 明日香	阿部 三知代	山下 佳代	宇田 薫	宇田 薫	西尾 昌美	篠原 由美子	濱砂 美幸	澁内 広之	米田 貢
小海 朋子	藤原 英子	久保 勝幸	岡田 千砂	早川 裕子	寺谷 剛	佐藤 嘉晃	鈴木 真弓	有働 正二郎	竹内 大人
形山 泰次郎	小瀬 憲司	小池 伸一	青山 和美	古江 伸志	井上 薫	河口 彰良	井上 俊子	寺村 等子	山本 晶子
牛島 由紀雄	松田 竜幸	熊本 昭人	大塚 美奈子	田中 伸吾	目黒 文彦	齋藤 龍一	谷川 良博	三崎 一彦	北野 真奈美
川上 和敏	小渡 充	鈴木 直子	佐藤 由子	篠崎 雅江	鎌田 ひろみ	高橋 奈々子	奈良 素子	辻 智智	大久保 美也子
今西 里佳	富永 孝之	林 久子	白石 美穂	白石 美穂	齊藤 淳	三井 忍	櫻川 淳也	岡本 伊津子	宮口 英樹
小林 法一	千田 茂	小沢 健一	小沢 健一	小沢 健一	河野 光伸	近野 智子	上原 奈緒子	長井 龍	寺本 佳津明
石附 智奈美	小林 尚子	妹尾 勝利	青木 朗	中西 英一	中島 そのみ	田邊 はるみ	明石 美穂	渡邊 愛記	横山 純子
西村 好正	手島 茂盛	青木 朗	山形 力生	安永 雅美	又村 守之	赤羽 美和	信久 美佐子	高内 志保	瀧川 剛
瓜生 充恵	山田 隆人	山形 力生	多賀 誠	上田 博文	川野 辺 稜	足立 一	佐藤 洋子	小林 彰	彌川 志喜
西野 友理子	高山 直美	高頭 美恵子	高頭 美恵子	岡崎 謙治	川口 将史	森川 孝子	村越 妙美	小林 豪	磯貝 理栄
藤原 一	松尾 美幸	中田 育男	中田 育男	大賀 隆憲	川北 妃呂恵	若井 亜矢子	若松 剛	瀨尾 美智子	野村 和代
佐藤 純	一ノ本 隆史	鎌田 莊平	鎌田 莊平	藤川 貴子	二村 淳子	東 ひとみ	能村 友紀	福井 朱美	井口 佳晴
大矢 恒司	米田 則幸	荒木 良夫	荒木 良夫	田中 将史	二村 淳子	田中 順子	青木 みゆき	平田 圭子	杉本 真紀
澤口 勇	下條 洋子	大橋 ふさよ	大橋 ふさよ	井上 慎一	鮫島 亮子	石川 明子	遠藤 浩之	田中 知子	原田 康江
上原 美智代	岡 範子	巽 絵理	巽 絵理	池田 史恵	大塚 悦子	菊地 公子	後藤 英子	田中 孝子	西尾 みのり
増矢 麻理	木下 博光	崎原 幸枝	崎原 幸枝	中岡 眞樹子	西山 和美	安井 和子	富樫 由美子	木下 大介	石川 慎二
西村 正彦	本田 直	千葉 登	千葉 登	山本 照美	一柳 重久	関川 文香	古川 香	古山 佳子	畑田 由美
松田 卓子	矢野 高正	熊本 弥生	熊本 弥生	小野塚 美和	古澤 潤一郎	山本 孝かおり	出谷 京子	北川 仁	長原 美穂
石川 文	建木 健	熊本 弥生	熊本 弥生	小野塚 美和	大井 はる奈	井上 香	田中 聡美	本間 ルミ子	三家 早織
貞貴 将志	森口 智恵美	四方 秀人	四方 秀人	平原 奈緒美	矢野 宏行	友森 祐規子	山田 勝久	藤井 貴	小松 博彦
河村 章史	河口 青児	沖田 かおる	沖田 かおる	藤岡 晃	加納 いずみ	尾武 達雄	越後 歩	濱田 正貴	中浦 俊一郎
今西 潤子	佐藤 拓也	溝部 二十四	溝部 二十四	飯脇 剛敏	宇佐美 知子	龜ヶ谷 忠彦	形部 麻里	青木 栄一	羽原 恵
加藤 淳一	瀨田 基敬	益子 朋子	益子 朋子	宇佐美 知子	山田 将之	山内 麻実子	中山 真一	金子 史子	松原 麻子
吉田 和弘	金子 ルミ	中村 順子	中村 順子	河本 敦史	三枝 秀平	田田 秀之	上野 玲子	田中 智子	小林 幸治
西口 嘉和	井上 美和	中村 裕二	中村 裕二	福崎 恭子	徳田 光広	前田 亮介	高野 聡	東野 幸夫	水野 理栄
今野 梓	金城 愛	吉岡 恵美	吉岡 恵美	山口 千秋	福崎 恭子	北川 いずみ	大山 由紀子	藤井 暁子	澤田 泰洋
福家 亜希子	丸山 優子	石井 登	石井 登	寺本 千枝	山口 潤	峯 真里	松野 豊	保田 ひろみ	大室 良哉
渡辺 香苗	神原 律子	佐々木 昇	佐々木 昇	五ノ井 亮子	今井 潤	小林 貴子	金子 智治	高尾 人史	笠川 供宏
林 もも子	中村 めぐみ	若松 くらら	若松 くらら	照屋 若夏	五ノ井 亮子	中山 仁	前田 悠志	向井 眞理子	岩田 美幸
田中 真由美	西谷 健次	都甲 哲生	都甲 哲生	島本 和孝	中野 小織	鈴木 竜平	宮崎 由美	石井 宏征	井瀨 和彦
幸田 英二	太田 美智子	松本 麗生	松本 麗生	岸村 厚志	中野 小織	鈴木 竜平	日向 加奈恵	山崎 由起子	井瀨 和彦
鈴木 雅人	山田 ともみ	藤田 昭生	藤田 昭生	森安 有岐子	松岡 明子	水上 馨	林 浩之	石井 光子	田中 伸二
磯部 美和子	近藤 昭彦	堀山 尚	堀山 尚	仲野 紀弥代	藤田 昭生	新井 孝行	長谷川 明洋	佐尾 健太郎	川原 麻子
坂東 仁志	大庭 俊裕	白田 典正	白田 典正	青木 住子	伊集院 文	吉田 弘輝	石崎 健	齊木 良子	大井 雅人
袁輪 千帆	村元 聖治	春名 優紀子	春名 優紀子	青木 住子	松岡 明子	菊川 恵一	西川 明美	渡部 悠司	小野 智美
下岡 智恵美	斎藤 崇宣	戸野 雅子	戸野 雅子	松岡 明子	松岡 明子	日高 百代	有久 勝彦	関 貴弘	竹村 佳奈子
倉重 智恵美	藤吉 友見子	吉本 雅一	吉本 雅一	大内 由紀	大内 由紀	中根 英喜	三浦 正樹	小野 孝久	金澤 聡
山内 弘美	沼田 一成	服部 順子	服部 順子	渡辺 慎介	渡辺 慎介	長面 小も子	甲斐 裕介	吉田 悟己	秋山 尚也
田村 浩介	佐久間 大輔	山口 理恵	山口 理恵	田中 佐千恵	田中 佐千恵	小川 千穂	小川 千穂	木村 智美	中武 潤
加藤 和貴	山口 理恵	金田 麻利子	金田 麻利子	牧村 悠子	牧村 悠子	蛭川 裕二	薄井 俊介	中満 篤子	山本 貴之
加藤 聖子	澤田 辰徳	天野 恵	天野 恵	野口 卓也	野口 卓也	田野 拓史	川原 眞友美	齊藤 裕久	北川 光代
竹中 愛	小松原 靖子	渡邊 純子	渡邊 純子	上宿 秀明	上宿 秀明	丹中 秀和	松永 智香	坂田 昌子	阿曾 秀昭
田口 真司	山内 由香	高橋 正基	高橋 正基	磯野 秀樹	磯野 秀樹	佐々木 努	野際 陽子	太田 千津子	香川 宗祐
鈴木 伸一	竹中 孝博	石井 清志	石井 清志	由利 緑巳	由利 緑巳	兼子 健一	清水 淳也	清水 淳也	中畑 誠一
熊谷 隆史	小林 綾子	門田 良子	門田 良子	薬師寺 京子	薬師寺 京子	北川 真喜子	和田 周二	中村 和也	見形 紘子
渡邊 久仁子	福島 浩満	山村 浩二	山村 浩二	工藤 章	工藤 章	富永 礼子	山下 順二	岩永 美香	足立 正史
義田 香織	佐賀里 昭	高橋 広樹	高橋 広樹	木村 明博	木村 明博	相馬 尚孝	武藤 健大	宮本 礼子	吉村 あかね
村松 真友美	星野 亨	光玉 隆典	光玉 隆典	平泉 淳一	平泉 淳一	太田 小弓	寺島 有希子	大岡 聖子	林 節也
宮城 若子	幸坂 元子	片岡 聡子	片岡 聡子	森松 千夏	森松 千夏	島田 綾子	石井 綾子	穴井 翼	土谷 里織
本家 寛文	宮崎 沙智子	古田 彩	古田 彩	佐藤 英子	佐藤 英子	山崎 正信	安永 正則	間間 順子	関 典子
堀 義治	杉本 英	後藤 幸恵	後藤 幸恵	田中 睦英	田中 睦英	宇野 正顕	向井 弓里	菅原 美穂	三輪 歩
小野 健一	初田 憲昭	柴田 全利	柴田 全利	中村 幸輔	中村 幸輔	和田 尚	永山 弓子	阿部 理恵	稲田 征男
塚田 菜穂	鹿目 久美子	清水 純	清水 純	田浦 康代	田浦 康代	佐々木 智里	牧山 大輔	宗像 暁美	中嶋 武
小林 康人	今田 貴子	外山 貴浩	外山 貴浩	梶 木綿子	梶 木綿子	高梨 悠一	海藤 大介	日下部 修	櫻井 章人

- | | | | | | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|---------|---------|
| 水谷 とも江 | 吉田 健門 | 逸見 康子 | 平澤 勉 | 奥田 裕美 | 米山 敦 | 國島 千晶 | 大場 綾希子 | 佐々木 由希子 | 生田 純一 |
| 西園 晋明 | 飯尾 門 | 刑部 恵 | 竹田 菜里 | 石川 貴史 | 稲 英彦 | 岡本 信雄 | 井口 知也 | 武藤 光弘 | 清本 憲太 |
| 黒木 勝仁 | 鈴木 渉 | 開發 基文 | 佐々木 由佳 | 下川 幸藏 | 永田 敬生 | 岡橋 さやか | 牧野 有華 | 中西 一 | 宇佐見 崇恵子 |
| 大川 洋平 | 末吉 浩介 | 守谷 梨絵 | 松田 理恵 | 前田 憲志 | 中川 裕規 | 沖 信吾 | 山田 望 | 高岡 宏 | 滝口 幸一 |
| 高橋 ゆき | 河野 大輔 | 塩澤 智美 | 菅野 聖子 | 加藤 綾乃 | 重松 孝徳 | 中鉢 陽子 | 三雲 透 | 戸高 友博 | 富居 泰臣 |
| 上賀 元紀 | 野矢 雅志 | 林 辰博 | 久保 裕彰 | 荒木 歩 | 森元 隆文 | 萩原 真代 | 川畑 浩二 | 田畑 文子 | 伊藤 篤史 |
| 塩田 繁人 | 野島 美希 | 池田 勝則 | 岡本 悟 | 渡邊 誠 | 藤田 剛敬 | 城倉 祐紀 | 白井 美奈子 | 助川 圭佑 | 菊地 教輔 |
| 岩田 光展 | 有馬 祐美子 | 森川 健一 | 金子 敦史 | 島野 大二郎 | 森元 隆文 | 武藤 真理 | 田代 勇二 | 北上 守俊 | 後藤 田 朋子 |
| 藤 功 | 瀨田 亜樹 | 村山 雅子 | 川添 由加利 | 水野 伸 | 檜島 恵美 | 北村 賢司 | 三宅 伸吾 | 久保 幸 | 井部 光滋 |
| 石川 弘幸 | 岡 道生 | 富永 愛子 | 黒岩 沙希 | 福澤 愛 | 山田 恭平 | 大谷 篤史 | 北森 寛子 | 永松 健治 | 前田 美沙穂 |
| 山口 陽子 | 鈴木 有希子 | 中村 美歌 | 阿部 住奈 | 松越 稔 | 芝 圭一郎 | 中村 俊介 | 竹本 舞 | 小田 俊昌 | 内田 克志 |
| 坂下 慶多 | 大西 雅俊 | 佐藤 陽彦 | 岩本 悠 | 青柳 直人 | 木村 亮太 | 本田 知慎 | 山岡 裕史 | 川越 大輔 | 川村 享平 |
| 小玉 武志 | 岡崎 史裕 | 熊谷 のぞみ | 古牧 典之 | 井上 いずみ | 江口 喜久雄 | 中條 賢治 | 清水 真由美 | 宇佐美 好洋 | 阿部 純平 |
| 坂本 晴美 | 水村 昌行 | 高田 幸治 | 河内 聡子 | 岩波 潤 | 中田 里美 | 館 英生 | 佐藤 佑一 | 中黒 麗子 | 荒谷 里美 |
| 中島 崇暁 | 森中 純史郎 | 牧野 航 | 西田 健吾 | 佐尾山 諭 | 千田 芳明 | 山田 克範 | 塩貝 勇太 | 田中 正博 | 松尾 崇史 |
| 内野 康一 | 松枝 琢磨 | 常田 つかさ | 窪谷 和泰 | 今野 剛詞 | 松澤 翔太 | 露崎 雄太 | 田中 智章 | 畑中 悠紀 | 小松 友明 |
| 須藤 智宏 | 熊谷 篤史 | 福井 麻貴 | 徳永 謙一 | 太田 有人 | 市田 博子 | 川上 絃司 | 本間 真琴 | 井ノ口 征幸 | 櫻井 卓郎 |
| 河邊 宗知 | 松岡 大樹 | 橋本 隆太 | 宮園 康嗣 | 原田 祐輔 | 野田 孝博 | 川合 康夫 | 川合 康夫 | 古松 建吾 | 井部 光敏 |
| 濱中 克彦 | 友寄 隆太 | 村上 隆 | 荒井 真奈美 | 堀 智一 | 小野 邦明 | 松本 大輔 | 大瀬 武 | 榎田 臣弘 | 道原 宏太 |
| 横山 哲之 | 下郡 華己 | 手嶋 雄太 | 永山 俊介 | 多辺田 俊平 | 佐々木 孝次 | 中村 哲朗 | 椿原 一郎 | 椎屋 陽生 | 肝付 宏人 |
| 小林 圭 | 北嶋 翔 | 森 豊 | 川崎 祐太郎 | 田中 美絵 | 熊原 妙子 | 吉川 瞳 | 都甲 幹太 | 江塚 孝代子 | 藤崎 尚子 |
| 岩切 良太 | 廣瀬 東洋城 | 土田 舞 | 渡邊 真一 | 白石 朋代 | 岩切 良子 | 宇都木 淳弘 | 宇都木 淳弘 | 戸里口 孝徳 | 薬山 里絵 |
| 満丸 龍太 | 有澤 沙織 | 山本 太地 | 甲斐 竜太 | 佐藤 英樹 | 荒田 大輔 | 関 久美子 | 工藤 拓志 | 小田 隆史 | 宮田 美帆 |
| 高橋 秀和 | 鳥越 克志 | 首藤 智一 | 池田 大 | 原田 大河 | 亀井 幸雄 | 神吉 真太郎 | 塚本 倫央 | 石川 洋平 | 佐多 裕次郎 |
| 中津留 正剛 | 武富 仁志 | 吉田 淑絵 | 日谷 さおり | 窪 優太 | 中本 久之 | 岡部 拓大 | 國分 俊之 | 石丸 珠江 | 今野 嵩 |
| 小柳 津皓史 | 伊藤 亜由美 | 寛 智裕 | 千葉 さおり | 渡部 祐介 | 篠原 茉莉花 | 内山 大輔 | 垣下 真宏 | 藤村 由美子 | 三浦 太一 |
| 山本 祐輔 | 福井 このみ | 小田島 悠也 | 中山 陽平 | 高島 理沙 | 辻村 肇 | 渡邊 沙織 | 谷口 賢一 | 岡本 絵美 | 成沢 修太郎 |
| 渡邊 浩一 | 崎内 誠司 | 松尾 祐介 | 井内 美帆 | 岩崎 里美 | 久保 友員 | 望月 正貴 | 沖田 和代 | 川原 潤基 | 石川 裕子 |
| 稲 紀美 | 野坂 康博 | 富田 香織 | 佐賀 大祐 | 山本 真理子 | 瀨ノ上 かおり | 大田 茂臣 | 水尻 圭介 | 杉野 達也 | 津由 季 |
| 山下 徹郎 | 植村 雄磨 | 福代 大輔 | 松本 琢磨 | 佐々木 絵里 | 菅野 愛海 | 江尻 聡美 | 井手 洋平 | 中村 龍太郎 | 岡田 豊 |
| 辻田 宏 | 鬼頭 武志 | 山田 聡恵 | 清酒 賢一 | 菊本 理恵 | 土器屋 真未 | 中村 每途 | 後藤 啓士郎 | 宮本 英嗣 | 椿 智子 |
| 菅 真 | 小野瀬 剛広 | 木村 真弓 | 塩屋 博史 | 赤江 有希 | 横山 雄 | 小泉 芳輝 | 佐藤 紀子 | 小島 佳祐 | 片岡 信介 |
| 清武 昌光 | 高原 千裕 | 西田 典真 | 前田 夕貴 | 橋本 奈奈 | 吉岡 有理亜 | 吉田 久美香 | 若月 雅人 | 山口 華菜 | 熊谷 将志 |
| 竹淵 のどか | 岡本 美絵 | 三浦 祐一 | 野村 真弓 | 長坂 ひとみ | 小嶋 秀一 | 澤 佳奈 | 島崎 雄大 | 飯沼 秀哉 | 西田 由衣 |
| 村上 太気 | 今井 はるか | 島田 悠気 | 笹井 祥充 | 石澤 正夫 | 米山 智彦 | 廣瀬 慶子 | 結城 和幸 | 菅井 秀美 | 鎌田 雄大 |
| 三浦 桃子 | 梅坪 弦太 | 金田 友紀恵 | 新井 有希 | 山本 亮二 | 佐藤 亜由美 | 石田 佳大 | 松崎 真也 | 黒木 貴博 | 山本 祥史 |
| 秦 健一郎 | 羽川 孝幸 | 野村 健太 | 大野 亮二 | 甲斐 慎介 | 尾原 秀太 | 澤田 香織 | 山浦 卓哉 | 塚原 千恵 | 鎌田 雄大 |
| 河楚 康二郎 | 丹羽 敬浩 | 大野 亮二 | 加藤 直樹 | 高沢 早和子 | 小柳 悟美 | 野崎 直美 | 細川 大瑛 | 清家 庸佑 | 小池 拓馬 |
| 斉藤 俊文 | 篠原 健悟 | 大甲斐 直樹 | 柳原 智子 | 小川 真紀 | 尾原 秀太 | 大西 慶彦 | 押川 真理子 | 江原 永士 | 佐藤 淳 |
| 井原 悠太 | 篠原 健悟 | 高沢 早和子 | 中山 泰人 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 石丸 裕美 | 高沢 早和子 | 高沢 早和子 | 中山 泰人 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 宇野 静典 | 中山 昭彦 | 中山 昭彦 | 中山 泰人 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 田中 裕二 | 荒元 祥輔 | 荒元 祥輔 | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 岩淵 哲史 | 谷越 祥子 | 谷越 祥子 | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 沢田 麻貴子 | 運田 加奈子 | 運田 加奈子 | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 山崎 翔太 | 清水 拓人 | 清水 拓人 | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 土屋 龍也 | 大槻 秀一 | 大槻 秀一 | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 横山 直弥 | 藤山 真理子 | 藤山 真理子 | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 山崎 正樹 | 平山 公章 | 平山 公章 | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 藤井 佳織 | 若林 あゆみ | 若林 あゆみ | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 木村 奈々瀬 | 若林 あゆみ | 若林 あゆみ | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 小林 俊介 | 若林 あゆみ | 若林 あゆみ | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 夏川 由貴 | 若林 あゆみ | 若林 あゆみ | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 加藤 瑞貴 | 若林 あゆみ | 若林 あゆみ | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 一色 学 | 若林 あゆみ | 若林 あゆみ | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 山家 恭平 | 若林 あゆみ | 若林 あゆみ | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 石動 友里 | 若林 あゆみ | 若林 あゆみ | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 伊藤 賢司 | 若林 あゆみ | 若林 あゆみ | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 黒川 裕美 | 若林 あゆみ | 若林 あゆみ | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 高山 絢夫 | 若林 あゆみ | 若林 あゆみ | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 本間 冬真 | 若林 あゆみ | 若林 あゆみ | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 柏崎 勉 | 若林 あゆみ | 若林 あゆみ | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 政 愛 | 若林 あゆみ | 若林 あゆみ | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 熊谷 恵利 | 若林 あゆみ | 若林 あゆみ | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 柳澤 好美 | 若林 あゆみ | 若林 あゆみ | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 藤原 千愛 | 若林 あゆみ | 若林 あゆみ | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 中野 祐輔 | 若林 あゆみ | 若林 あゆみ | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 恒廣 陽樹 | 若林 あゆみ | 若林 あゆみ | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 高垣 利信 | 若林 あゆみ | 若林 あゆみ | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 橋原 千浩 | 若林 あゆみ | 若林 あゆみ | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 藤原 紗弥 | 若林 あゆみ | 若林 あゆみ | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 平澤 志保 | 若林 あゆみ | 若林 あゆみ | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 岩崎 竜弥 | 若林 あゆみ | 若林 あゆみ | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 大草 直樹 | 若林 あゆみ | 若林 あゆみ | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |
| 山田 雄太郎 | 若林 あゆみ | 若林 あゆみ | 中山 昭彦 | 小川 真紀 | 小柳 悟美 | 桑山 登志光 | 山田 慶 | 萩原 貴大 | 内原 基成 |

以上 1452 名

2018年度臨床実習指導施設認定審査結果

(2019年度定時社員総会時提示資料)

以下の施設を2018年度に臨床実習指導施設として認定したことを公示する(太字は新規取得施設)。
なお、2018年度申請施設のうち、2019年度になって審査を受けた施設は含まれない。

- [北海道] 八雲総合病院
市立札幌病院
旭川赤十字病院
北海道社会事業協会 余市病院
社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター
- [青森] 公益財団法人シルバーリハビリテーション協会 メディカルコート八戸西病院
- [秋田] 秋田労災病院
社会医療法人明和会 中通りリハビリテーション病院
秋田県立病院機構 秋田県立リハビリテーション・精神医療センター
- [山形] 社会福祉法人恩賜財団済生会支部 山形県済生会 山形済生病院
山形市立病院済生館
- [福島] 医療法人為進会 寿泉堂 松南病院
- [茨城] 医療法人博仁会 志村大宮病院・茨城北西総合リハビリテーションセンター
特定医療法人社団同樹会 結城病院
- [栃木] 一般社団法人巨樹の会 宇都宮リハビリテーション病院
- [埼玉] 埼玉医科大学総合医療センター
- [千葉] 医療法人社団心和会 新八千代病院
国立研究開発法人国立国際医療研究センター 国府台病院
- [東京] 心身障害児総合医療療育センター
JCHO 東京新宿メディカルセンター
学校法人順天堂 順天堂大学医学部附属順天堂医院
初台リハビリテーション病院
医善会 いずみ記念病院
社会福祉法人日本心身障害児協会 島田療育センター はちおうじ
- [神奈川] 公立大学法人横浜市立大学 横浜市立大学附属病院
医療法人社団明芳会 横浜旭中央総合病院
- [石川] 金沢大学附属病院
県立高松病院
- [長野] 北アルプス医療センター あづみ病院
安曇野赤十字病院
- [岐阜] 医療法人春陽会 慈恵中央病院
岐阜大学医学部附属病院
- [静岡] 菊川市立総合病院
医療法人社団清明会 静岡リハビリテーション病院
- [愛知] 医療法人桜桂会 犬山病院
笠寺精治療病院
杏嶺会 上林記念病院
医療法人光慈会 知立老人保健施設
名古屋第二赤十字病院
医療法人名南会 名南ふれあい病院

- 〔三重〕 三重県厚生農業協同組合連合会 鈴鹿厚生病院
信貴山病院分院 上野病院
- 〔滋賀〕 近江温泉病院
- 〔京都〕 京都市立病院
公益財団法人丹後中央病院 丹後中央病院
医療法人社団石鍵会 田辺中央病院
- 〔大阪〕 医療法人大植会 葛城病院
浅香山病院
関西医科大学附属病院
社会医療法人大道会 森之宮病院
社会医療法人仙養会 北摂総合病院
- 〔兵庫〕 兵庫県立ひょうごこころの医療センター
医療法人内海慈仁会 姫路北病院
医療法人社団薫楓会 緑駿病院
加古川市民病院機構 加古川中央市民病院
社会医療法人三栄会 ツカザキ病院
- 〔和歌山〕 独立行政法人労働者健康安全機構 和歌山ろうさい病院
- 〔鳥取〕 社会福祉法人こうほうえん 錦海リハビリテーション病院
- 〔岡山〕 医療法人創和会 しげい病院
- 〔広島〕 中国労災病院
庄原赤十字病院
一般社団法人三次地区医師会 三次地区医療センター
医療法人社団大谷会 島の病院 おおたに
株式会社奏音 いろは訪問看護リハビリステーション
- 〔山口〕 社会福祉法人恩賜財団済生会支部 山口県済生会 下関総合病院
社会福祉法人恩賜財団済生会支部山口県済生会 豊浦病院
地方独立行政法人 山口県立病院機構 山口県立総合医療センター
- 〔香川〕 社会医療法人財団大樹会 総合病院 回生病院
坂出市立病院
- 〔愛媛〕 愛媛十全医療学院附属病院
- 〔福岡〕 福岡大学病院 リハビリテーション科
特定医療法人社団三光会 誠愛リハビリテーション病院
社会医療法人北九州病院 北九州総合病院
- 〔長崎〕 医療法人見松会 あきやま病院
医療法人伴師会 愛野記念病院
- 〔熊本〕 社会福祉法人恩賜財団済生会支部 熊本県済生会 済生会 みすみ病院
- 〔大分〕 社会医療法人敬和会 大分岡病院
- 〔鹿児島〕 社会福祉法人たちばな会 オレンジ学園
隼人温泉病院
- 〔沖縄〕 琉球大学医学部附属病院
医療法人おもと会 大浜第二病院
株式会社いきがいきレーション いきがいのまち デイサービス美里

以上 82 施設

代議員制について（解説）

2019年11月に、代議員選挙がいよいよ始まる
次号に代議員改選の公示を掲載予定

1 代議員とは何か

代議員とは正会員の代表として選挙で選出される人をいう。一般社団法人を規定する法制度（法人法）では、法律上の社員を代議員に置き換えることができるようになっている。

2 なぜ代議員制を取り入れているのか

法人法では、その法人を構成する全ての人を社員と称し、社員総会（現在の協会の総会に相当）では全社員の半数以上の出席がないと議決できないこととされている。半数以上の出席というのは、委任状を含めたとしても、正会員数が数万人となった当協会では現実的に困難である。その解決として代議員制を取り入れ、正会員の代表である代議員が社員総会へ出席する方法をとっているのである。

3 代議員の位置付けと役割

- ・ 正会員の代表である。
- ・ 任期は4年。代議員選挙後から次期代議員選挙までの期間。
- ・ 社員総会に対して出席する義務があり、また議決権（代議員1人で1個）を持つ。
- ・ 社員総会において定款に定められた以下の内容について議決を行う。

①会員の除名、②社員の解任、③理事及び監事の選任又は解任、④理事及び監事の報酬等の額、⑤定款の変更、⑥解散及び残余財産の処分、⑦その他社員総会で決議するものとして法人法又はこの定款で定められた事項

4 代議員の選出について

(1) 選出と選挙の方法

代議員は正会員による選挙で選出することとされている。当協会では、選挙区を各都道府県単位として、その地区毎にインターネット投票で選挙を実施する。インターネット投票の運営管理は当協会の選挙管理委員会で一元的に行っている。

(2) 選挙権と被選挙権

正会員なら誰でも、自分の都道府県において実施される選挙で投票できる権利を持ち、また自分の都道府県において代議員に立候補することが可能である。経験年数や経歴などは不問である。

5 代議員と正会員の違い

- ・ 代議員であっても、正会員としての会費納入や退会手続き等は同じである。
- ・ 代議員は社員総会への出席の義務がある。代議員以外の会員は総会傍聴が任意でできる。
- ・ 社員総会において、社員は議決事項（前述3を参照）について議決権があるが、正会員にはない。ただし、定款や社員総会の議事録、計算書類等についての閲覧の権利は代議員以外の正会員にもある。

6 役員を選出

役員選出の議決権は、代議員制のなかでは代議員のみとなる。また会長の選定について、法的には理事のみに議決権があり代議員にはない。ただし、当協会では正会員の意見を反映させた会長選出とするため、今年度より代議員による会長候補者投票選挙を行うこととなった。この投票結果を踏まえ、理事会では会長を最終的に選定するという流れとなっている。

7 代議員定数の算出

各都道府県の正会員 300 人につき 1 人の割合で選出され、かつ全ての都道府県からも最低 1 人以上は選出されるように規約で定めている。たとえば正会員 1,200 人の A 県の場合、正会員数から算出される数は 4 人 (1200 人 ÷ 300 人 = 4 人) であるが、最低 1 人以上は選出されるよう予備数 1 を加えるため、A 県の代議員定数は 5 人となる。

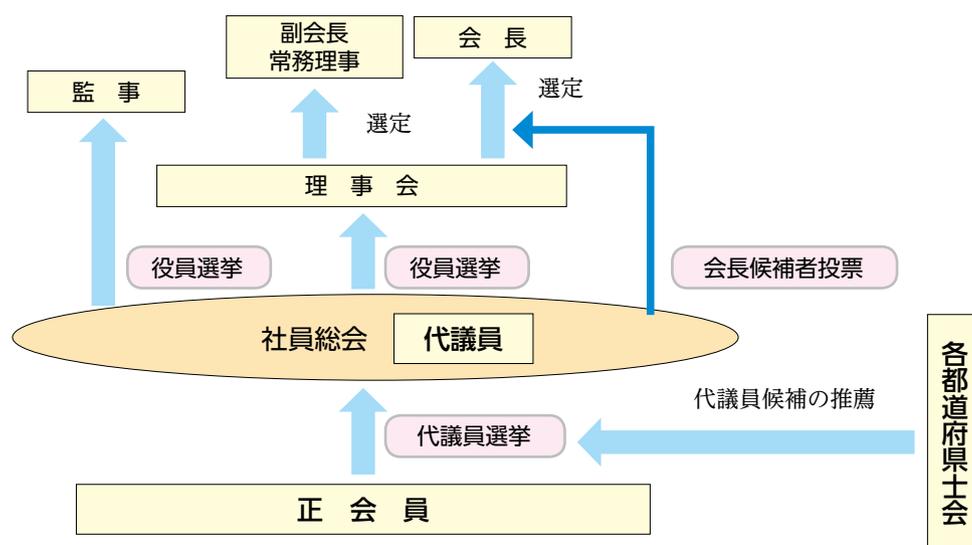
8 都道府県士会との関係について

この代議員はあくまでも日本作業療法士協会における位置付けであるが、選出については各都道府県士会の協力をいただきながら実施している。また各地区に代議員選挙運営委員を 1 名ずつ配置し、協会選挙管理委員会との連絡役を担っていただいている。

代議員への立候補者が定数に満たなかった場合、定数を満たすための推薦立候補者の選定も、各士会に依頼しているところである。

【図 当協会の役員選出の流れ】

- 1 正会員は代議員選挙によって、代議員を選出する。
- 2 代議員は役員選挙によって理事と監事を選出し、また会長候補者投票によって会長候補者を選出する。
- 3 理事は理事会の場において、会長候補者を会長として選定する。また副会長と常務理事を選定する。



第53回日本作業療法学会



The 53rd
Japanese
Congress & Expo
FUKUOKA 2019

作業療法研究のターニングポイント

The Turning Point in Occupational Therapy Research



会期：2019年9月6日（金）～8日（日）
会場：福岡国際会議場／福岡サンパレスホテル&ホール
学会ホームページ：<http://www.c-likage.co.jp/ot53/>

学会長 東 登志夫（長崎大学生命医科学域）

連載
第4回
(全4回)

第53回日本作業療法学会のテーマは、我が国の作業療法研究のレベルアップに向けた転換点となるように、との願いを込めて「作業療法研究のターニングポイント(The Turning Point in Occupational Therapy Research)」となっています。

基調講演やシンポジウムに関しても、学会テーマに合わせて、ご参加いただく方々の刺激になるようなものを企画し、活発な議論ができる学会としたいと考えております。ぜひ、皆様のご参加をお待ちしております。

***** 参加者へのご案内 *****

○学会参加費について

区分	当日登録 (全日参加)	1日参加 (当日登録のみ)
正会員（日本作業療法士協会の会員）	15,000円	8,000円
WFOT会員（海外参加者）	15,000円	8,000円
一般・他職種	12,000円 ※職種を明らかにできる証明証などをご持参ください。	—
学生	6,000円 ※学生証をご持参ください	—

※当日参加のお支払いは、当日受付で行ってください。

※一般社団法人日本作業療法士協会の会員であり且つ学生（学部生・大学院生）の方は、正会員としての参加費をお支払ください。

※市民公開講座は無料です。

○受付方法について

【当日受付会場・時間】

日付	時間帯	場所
9月6日（金）	8:30～17:00	福岡国際会議場 1Fロビー
9月7日（土）	8:00～16:30	
9月8日（日）	8:30～11:30	

【当日受付】

参加受付前の記名台に設置している「当日参加申込用紙」に必要な事項をご記入のうえ「2019年度電子会員証」とともに当日受付へご提示いただき参加費をお支払いください。

電子会員証は携帯電話（iPhone、スマートフォン）でご提示いただくか、事前に「電子会員証」を印刷し、当日お持ちください。

◆注意点

- 協会年会費をお振込みでない方は、必ず、**学会期日の2週間前までにお支払いをお済ませください**。納入後、電子会員証発行までに約2週間かかりますので、早めの納入をお願いします。会期直前に協会年会費をお振込みされた場合は、領収証（払込受付証明証）をご持参ください。
- ネームカードに氏名、所属を記入し、会場内では必ず首から提げてください。
- **発行された学会参加ポイントシールの再発行はできませんので、紛失しないようご注意ください。**

【事前登録を完了された方の受付】

- 事前参加登録をされますと随時、「事前参加登録受付完了通知」メールが届きます（クレジットカードオンライン決済の場合は、本メールが「入金確認通知」を兼ねます）。
- オンライン登録画面に会員番号と姓名でログインし、ご自身で参加登録確認書の印刷を行ってください（参加登録確認書は会期当日中までの間はログインして何度でも印刷が可能です）。
- 印刷した参加登録確認書を必ずお持ちのうえ、当日会場へお越しください。

○クロークについて

【受付時間】

日付	時間帯	場所
9月6日（金）	8:30～18:45	福岡国際会議場 2F デッキ
9月7日（土）	8:00～18:45	
9月8日（日）	8:30～13:30	

- 現金などの貴重品、PC、傘（日傘）、割れ物、昼食・生ものはお預かりできません。
- 荷物は必ず当日中にお引き取りください。万が一、所定の時間内にお引き取りのない荷物は、スタッフの判断にて保管場所の移動などを行う場合があります。あらかじめご了承ください。

○託児室について

託児室を開設いたします（事前申込制）。詳細については、学会ホームページをご参照ください。

○専門作業療法士関連セミナーについて

お昼の時間に専門作業療法士関連セミナーを開催いたします。昼食を取りながら聴講いただけますので、昼食・飲み物を各自ご持参ください。

○機器展示について 9月6日（金）・9月7日（土）9:00～17:00

福岡国際会議場2F多目的ホールおよび5Fにて機器展示を行います。各種リハビリテーション機器、福祉機器、アクティビティ素材、遊具等の展示が行われます。また、大学院説明ブースも設置いたします。

○昼食について

近隣のレストラン・喫茶・コンビニエンスストアをご利用ください。当日、会場でもお弁当や軽食の販売を予定しています。

○協会事務局受付

期日中、万が一会員証を持参しなかった場合は、協会事務局受付で仮会員証の発行を行うことができます。

※協会事務局受付では、新規入会申込受付および、年会費の納入受付は行っておりません。

必ず会期前に協会入会手続き、および当年度年会費を納入したうえで、学会に参加してください。

○第2回日本-台湾作業療法ジョイントシンポジウムへの参加

第53回大会参加者（全日参加および土曜1日参加）は無料で聴講いただけます。別途の申込・参加費は不要です。

***** 口述発表者の皆様へ *****

○PC 受付（発表データ受付）

1) 受付時間は以下の通りです。

日付	時間帯	場所
9月6日（金）	8:30～15:50	福岡国際会議場 2Fロビー
9月7日（土）	8:00～15:50	
9月8日（日）	8:30～9:40	

2) 運営事務局では、発表データの事前受付は行っておりません。

3) 生涯教育ポイントシールをPC受付で配布しておりますので、お受け取りください。

○口述発表（一般演題・スペシャルセッション）の方法

1) 発表者は、セッション開始1時間前までにPC受付をお済ませのうえ、各自の当該セッション開始10分前までに、次発表者席に着いてください。

■発表時間

一般演題：発表7分、質疑応答3分

スペシャルセッション：発表10分、質疑応答5分

※終了1分前と終了時に合図をします。発表者は時間厳守をお願いします。

2) 発表用データの画面送りは、発表者に行っていただきます。演台上にはデータをコピーしたPC、マウスを準備しておりますので、演台上のPCモニターを確認しながら、画面送りの操作を行ってください。レーザーポインターも演台上に準備いたしますのでご利用ください。

SNS上での同時動画配信等をご遠慮ください。

***** ポスター発表者の皆様へ *****

○ポスター発表の受付

ポスター受付は、発表当日の13:00までに行ってください。

日付	時間帯	場所
9月6日(金)	9:00 ~ 13:00	福岡国際会議場 2F多目的ホール
9月7日(土)		

○ポスター発表の方法

- 1) ポスター発表は1時間のセッション時間を設けており、自由討議形式で実施します。
- 2) 発表者はセッション開始1時間前までにポスター受付をお済ませのうえ、各自のパネル前に当該セッション開始10分前までに待機してください。
- 3) 時間中はポスター前から離れないようにしてください。座長・司会はいませんので、時間中に参加者との討議をお願いいたします。
- 4) ポスター発表受付の際に、日本作業療法士協会生涯教育ポイントシール(筆頭発表者分)をお渡しします。
※ポイントシールは筆頭発表者分のみ配付となります(共著者は配付の対象ではありません)。

○ポスターの掲示・撤去方法

- 1) ポスター演題の発表は、1日目(9月6日)と2日目(9月7日)で貼り替えとなります。

学会参加受付を済ませたうえで、下記時間内に掲示・撤去を行ってください。

日付	掲示時間	撤去時間	場所
9月6日(金)	9:00 ~ 10:00	18:00 ~ 18:30	福岡国際会議場 2F多目的ホール
9月7日(土)	9:00 ~ 10:00	17:30 ~ 18:00	

***** 座長の皆様へ *****

口述発表(一般演題)の座長の皆様へ

座長の受付は「座長・司会受付」にて行います。

日付	時間帯	場所
9月6日(金)	8:30 ~ 16:30	福岡国際会議場 2Fロビー
9月7日(土)	8:00 ~ 16:20	
9月8日(日)	8:30 ~ 10:10	

※当該セッション開始30分前までに受付をお済ませのうえ、10分前までに次座長席に着いてください。



福岡学会ブース 「女性会員の広場」のご案内

事務局 福利厚生委員会

協会は2015年に「女性会員の協会活動参画を促進するための提案」を理事会で承認して以来、この提案を実現していくために、福利厚生委員会を中心に、さまざまな取り組みをしてまいりました。

その一環として昨年も実施しましたが、第53回日本作業療法学会（福岡）会場に「女性会員の広場」というブースを設けることになりました。

ブースでは、女性作業療法士としてのさまざまな悩みや経験を分かち合ったり、問題を解決するためのヒントや助言を見つけていただける企画を準備しております。悩みを抱えている方も、悩みを乗り越えた方も、ぜひお気軽にお立ち寄りいただき、思いや経験を共有し、気持ちのもち方や解決策を一緒に考え、共に明日への活力に致しましょう。ご来場を心よりお待ちしております。

【日時】 2019年9月6日（金）・7日（土）両日とも10:00～17:00

【場所】 福岡国際会議場

【内容】 分かち合い・意見交換（随時）、出張女性相談窓口（随時）

ミニ講演（9/6…10:00～、12:00～、14:00～、16:00～）

（9/7…10:00～、12:00～、14:00～）

（子育てしながら働く男性・女性会員、士会・協会での理事活動に携わっている女性会員、管理職の立場である女性会員、女性協会理事のお話等）

「医療福祉eチャンネル」新番組紹介 <http://www.ch774.com>



講師：亀口憲治教授
（国際医療福祉大学大学院）、他

臨床心理学概論～ストレス時代を生き抜く知恵と工夫～

実践例を含めた講義を通して多面的に学ぶことで、臨床心理学の活動分野と活動内容のイメージを具体的に持ちます。

各臨床領域での臨床心理の活動の実際を知り、医療福祉専門職の受講生が、臨床心理士との他職種連携を行っていく際の、臨床心理学の専門職の理解の一助とします。併せて、臨床心理学的知見を自身の専門分野に生かしていくヒントを得る機会とします。

医療・福祉の動画配信サイト

医療福祉 **e**チャンネル

0120-870-774（前9:00～後5:00/土・日・祝を除く）

E-mail: info@iryofukushi.com URL: <http://www.ch774.com>





国際部 Information

第53回日本作業療法学会 in 福岡 国際部企画インフォメーション

アジアの作業療法士協会の交流会（仮称）

学会前日の企画です。ぜひご参加ください 参加費無料 同時通訳付

日時 2019年9月5日（木）（学会前日）13:30～17:00（受付13:00～）

会場 福岡国際会議場 国際会議室501（福岡市博多区石城町2-1）

テーマ 1) 心理社会領域の作業療法

2) 女性作業療法士が働きやすい職場と作業療法士協会の支援

※各国が2つのテーマで発表し、ディスカッションと情報交換を行います。

参加国 シンガポール、フィリピン、香港、台湾、韓国、日本、モンゴル（オブザーバー）

オブザーバー参加の申し込みは協会ホームページから

<http://www.jaot.or.jp/exchangemeeting>

日本作業療法学会 国際部ブース 9月6日（金）・7日（土）

《情報共有》

◎ 2020年アジア太平洋作業療法学会（APOTC）マニラ（フィリピン）のお知らせ

◎ 台湾作業療法士協会：学会のお知らせ

◎ 韓国作業療法士協会：学会のお知らせ

◎ 日本の作業療法士の国際動向調査結果

《相談》

◎ JICA 海外協力隊 応募相談

◎ 内閣府「地域コアリーダープログラム」 応募相談

◎ 留学相談

《特別企画》

◎ 国際シンポジウムに登壇するアジア・太平洋作業療法地域会議長の Patrick Ker 氏と国際部ブースで交流

◎ 「JICA 海外協力隊の活動現場とつながる」—ベトナムで活動する海外協力隊作業療法士とネットを通して交流（9月7日（土）昼頃に予定）



昨年の特別企画「JICA 海外協力隊の活動現場とつながる」はモンゴルとつながり交流しました

国際交流パーティー 9月6日（金）

会場 JR 博多シティ9階 くうてん Cantina シチリアーナ

時間 19:00～ **参加費** 5,000円

アジアを中心としたさまざまな国の作業療法士が参加する交流会です。

ぜひご参加ください。

申し込みはこちらから

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/a0236338578640>

問い合わせ 国際部 松崎理佐 riearnisae91@gmail.com



昨年の国際交流パーティーで、フィリピンからのゲストが自己紹介をしている様子

国際部ブース企画と国際交流パーティーの最新情報が学会当日に国際部ブースに掲載されますので、ぜひブースにお越しください。



Japan-Taiwan Occupational Therapy Joint Symposium 2019

9:00~12:00
September 7th, 2019

Venue Palace Room, Fukuoka Sunpalace Hotel, 2F

Language English (同時通訳なし)

Entry fee

- **Free** for participants of The 53rd JAOT Congress & Expo in Fukuoka 2019.
- 4,000 JPY for overseas participants who are participating in Joint Symposium only.

- 第53回日本作業療法学会参加者は**無料**
- ジョイントシンポジウムのみ参加する海外参加者は4,000円

※日本の作業療法士は第53回日本作業療法学会への参加登録(全日・単日)を基本とする

Schedule

8:30~8:55	Registration		
9:00~9:05	Opening Remarks: 中村春基 (Haruki Nakamura (JAOT President))	Chairperson	石橋英恵 (Etsue Ishibashi)
First Session [Blue Ocean: Emerging areas of OT Practice]			
9:05~9:35	Designing Robot-Assisted Training Programs for Upper Extremity Recovery of Stroke Patients: Clinical Implementation of Single and Hybrid Strategies	Speaker	Ching-yi Wu
9:35~10:05	義手の可能性と作業療法士の役割 The Possibility of Upper Limb Prosthesis and Role of Occupational Therapist	Speaker	柴田八衣子 Yaeko Shibata
10:05~10:25	Panel Discussion	Moderator 藤井浩美 Hiromi Fujii	
10:25~10:35	Break		
Second Session [Occupational Therapist as an Entrepreneur]			
10:35~11:05	From the Hospital to the Community: The Challenges and Turning Points	Speaker	Shu-Hui Lin
11:05~11:35	地域に根差した作業療法～作業療法士の起業 Community Based Occupational Therapy -Occupational Therapist as an Entrepreneur-	Speaker	辰己一彦 Kazuhiko Tatsumi
11:35~11:55	Panel Discussion	Moderator 塚小田孝安 Takayasu Zakoda	
11:55~12:00	Closing Remarks		

第1部

[Blue Ocean : Emerging areas of OT Practice]

テーマ Designing Robot-Assisted Training Programs for Upper Extremity Recovery of Stroke Patients: Clinical Implementation of Single and Hybrid Strategies

講師 Ching-yi Wu 氏
(Director of Healthy Aging Research Center, Distinguished Professor and Chair of Department of Occupational Therapy, Chang Gung University)

テーマ 義手の可能性と作業療法士の役割

講師 柴田 八衣子 氏
(兵庫県社会福祉事業団総合リハビリテーションセンター中央病院リハビリ療法部次長兼作業療法科主任作業療法士、福祉のまちづくり研究所ロボットリハビリテーションセンター次長、ロボットリハビリテーションセンター課主任作業療法士)

第2部

[Occupational Therapist as an Entrepreneur]

テーマ From the Hospital to the Community:
The Challenges and Turning Points

講師 Shu-Hui Lin 氏 (Lin Shu-Hui Occupational Therapy Clinic)

テーマ 地域に根差した作業療法～作業療法士の起業～

講師 辰己 一彦 氏 (株式会社UTケアシステム 代表取締役)



MTDLP 実施・活用・推進のための 情報ターミナル

次の扉を開く！ 啓発・普及から定着・展開へ

第 12 回

生活行為向上マネジメント士会連携支援室

1

生活行為向上マネジメント 事例報告登録制度 システム改修のお知らせ

学術部学術委員会 事例登録班

当協会は、2005 年より「事例報告登録制度」を運用し、2015 年 7 月より生活行為向上マネジメントの事例報告登録も開始されております。

近年では一般事例を含めると、1 年間に登録される事例報告は 700 事例以上となっていますが、そのなかで運用上の課題が生じてきましたので、下記的事例報告登録システムの改修、各手引きの改訂を行いました。

◆事例報告の入力可能文字数の拡大について◆

事例報告本文の入力可能文字数が少なく、事例報告を作成する際に字数内に表現するのが難しいという声が聞かれていました。

そのため、2019 年 6 月 6 日付けで事例報告の入力可能文字数の変更を行いました。併せて、「事例報告登録マニュアル（画面操作説明書）」、「事例報告書作成の手引き」も改訂を行い、第 9.0 版としました。システム改修後の入力可能文字数は以下の通りです。

事例報告の入力可能文字数について	
表題	全角 50 字以内
1 報告の目的	全角 200 字以内
2 事例紹介	全角 400 字以内 → 全角 600 字以内に変更 (一般事例は全角 400 字を目安にする)
3 作業療法評価	全角 600 字以内 → 全角 800 字以内に変更 (一般事例は全角 600 字を目安にする)
4 介入の基本方針	全角 200 字以内
5 作業療法実施計画	全角 600 字以内
6 介入経過	全角 800 字以内 → 全角 1000 字以内に変更 (一般事例は全角 800 字を目安にする)
7 結果	全角 500 字以内 → 全角 700 字以内に変更 (一般事例は全角 500 字を目安にする)
8 考察	全角 700 字以内
9 文献	全角 500 字以内

2 「通所リハビリテーションの生活行為向上リハビリテーションを活用しよう」のパンフレット完成へ

このたび、介護保険サービスにおける「生活行為向上リハビリテーション実施加算」に関わる制度の普及・啓発を目的としたパンフレットを作成しました。

対象者が「うまくできるようになりたい・してみたいができていないと思っている」、「生活行為」の向上に取り組む際に、基本的な作業療法の考え方を他職種と共有するために、地域ケア会議や担当者会議等で作業療法士が説明する際の手持ち資料として、また、通所リハビリテーションの「生活行為向上リハビリテーション実施加算」の利用についてケアマネジャーや利用者に理解していただくためのツールとして、ぜひともこのパンフレットを活用していただきたいと思います。

今後は、全国のMTDLP推進委員とも連携を図り、パンフレットの有効な活用方法や周知を図りたいと考えております。

パンフレットより一部抜粋

作業療法士
からの
事例紹介

近所のお店で買物ができるようになったMさん

要介護度2 男性 障害高齢者の日常生活自立度:A1 認知症高齢者の日常生活自立度:自立

既往歴/生活歴:頸椎症性脊髄症・胸髄症、洞不全 症候群 / T字杖でふらつきがあったが、外出は家族と行っていた。

☆目標達成☆

- 実行度:5点 ⇨ 9点
- 満足度:5点 ⇨ 10点

*実行度・満足度:10点満点での自己評価





◎施設周辺



3. 社会適応練習

自宅からお店まで歩いての買物
(休憩箇所の確認、家族との情報共有)

2. 応用練習

屋外歩行、荷物の運搬

1. 基礎練習

体操、筋力トレーニング、自主訓練

通所訓練期(週2回) 3ヶ月 社会適応訓練期(週1回) 6ヶ月

★データのダウンロードについては、協会ホームページの「MTDLP 士会連携支援室」に掲載します。
 なお、パンフレットは、両面・三つ折りタイプのパンフレットとなります。

MTDLP 関連情報は協会ホームページからいつでも見られます

QRコードからも直接、掲載ページに移動できます➡

≪ MTDLP 研修の履修促進に関する相談・問合せ ≫ [専用メールアドレス：mtdlp-master@jaot.or.jp](mailto:mtdlp-master@jaot.or.jp)

MTDLPのページはこちら ➡ [協会ホームページ TOP](#) 下段バナー「生活行為向上マネジメント」> [生活行為向上マネジメント士会連携支援室](#)





障害のある人のスポーツへの多様な参加を支援するために

障害のある人のスポーツ参加支援推進委員会

第3回 委員の紹介とアンケートのお願い

当委員会では、障害者スポーツに関する現状や作業療法士が実際に寄与できる側面などの情報を提供していくことが必要であると考えている。そこで、第3回と第4回では、委員の障害者スポーツに係る活動を紹介する。また、作業療法士の障害者スポーツへの継続的な関わり方を模索するため、会員の皆様に障害者スポーツへの関わり等のウェブアンケートを行っている。ぜひ回答にご協力をお願いしたい。

作業療法士だから引き出せるスポーツの力

NPO 法人キッズスポッチャ・株式会社空色 津田 憲吾

2020年東京パラリンピック競技大会まで残り約1年となり、各種メディアでパラリンピックが取り上げられる機会は格段に多くなっている。2014年に実施された日本財団パラリンピック研究会の調査によると、パラリンピックの認知度は98.2%であるにもかかわらず、障害者スポーツの直接観戦経験のある者は4.7%にすぎず、障害者スポーツ全体への認知度の低さが窺われた。また、笹川スポーツ財団の調査(2012年)によると、障害児・者が参加している総合型地域スポーツクラブ^{注1}は約3割(30.6%)であり、障害児・者を受け入れるスポーツ環境が未整備であると報告されている。

私は「NPO 法人キッズスポッチャ」という、障害があるお子さんを対象にした団体の活動に2010年より携わっている。また、本団体では障害がないお子さんと障害があるお子さんとの合同教室や、大分国際車いすマラソンへの協力(エスコートキッズ)、障害者スポーツ啓発イベントなど、社会とつながるための企画も積極的に行っている。

障害があるお子さんは、移動等に介助を必要とすることが多く、物理的に生活空間が限定されているため、同年代の障害がないお子さんと比較すると、放課後や休日に諸体験をする機会も大きく制約される。そういう生活の中で「スポーツ」に参加することで、普段接している家族や学校の先生、リハビリテーションスタッフに加え、同年代の障害があるお子さんとの交流も可能となる。障害があるお子さん

の生活空間は拡大し、身体を動かす機会が増えると考えられる。また、社会とのつながりをもつことで、社会で自立する意欲と社会性の獲得につながっていくことも期待できる。効果が期待できるのは、障害がある子どもたちのみではない。参加した障害がないお子さんとサポートスタッフにとっても、障害の有無にかかわらず、純粹に感動し同じ立場で物事に取り組むことは、ノーマライゼーション理念^{注2}への足掛かりになる。特に、子どもの頃より対等・平等の環境の中でスポーツを体験するこのような経験を重ねることが、障害があるお子さんや大人をより良く理解する啓発活動になると期待している。

『五体不満足』の著者であり、スポーツライターとしても活躍されている乙武洋匡氏は、著書の中で、



イベント集合写真

注1：多種目・多世代・多志向をキーワードに地域住民が自主的・主体的に運営するスポーツクラブ

注2：ノーマライゼーション理念：障害者と健常者とは、お互いが特別に区別されることなく、社会生活を共にするのが正常なことであり、本来の望ましい姿であるとする考え方

参考文献 ・ 日本財団パラリンピック研究会：「国内外一般社会でのパラリンピックに関する認知と関心」報告書，2014。
・ 笹川スポーツ財団：平成24年度文部科学省「健常者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業（地域における障害者のスポーツ・レクリエーション活動に関する調査研究）」報告書，2012。

子どもの頃に友だちと遊ぶ際には「乙ちゃんルール」なるものが存在したと記す。著者からは、このルールは既存のルールを柔軟に変化させる特効薬であり、使用したことにより友だち全員で遊んでいた様子が窺える。障害があってもなくても、誰もがそれぞれの幸せを手にするためには、「乙ちゃんルール」のように、互いが柔軟に物事を受け入れていく姿勢が

大切なのではないだろうか。

私は、作業療法士がスポーツに関わることで、この柔軟な姿勢を構築する一助となると考える。「その人らしさ」を引き出し、「人と人」を結び、「人と地域」を結びつける。これこそ作業療法士だから引き出せる「スポーツの力」ではないだろうか。

フットサルで日本一を目指す

県立広島大学 織田 靖史

「なんか、日本一目指したくない？」デイケアの更衣室で誰かが発したその一言が、きっかけだった。当時、バレーボールは全国精神障害者スポーツ大会で精神障害唯一の公式競技であり、私がいた高知県では、龍馬クラブという日本一の経歴をもつ、精神障害者のバレーボールチームがあった。障害者スポーツで日本一を目指すのなら龍馬クラブに加入するのが手取り早い方法かもしれない。しかし「新たな分野で日本一になりたい、その可能性を切り拓きたい」。そうした思いからフットサルを選んだ。

「障害者が参加できるフットサルチームを作ろうと思う」。私はいろいろなところで口にした。とはいえ、どうやってその思いをかたちにしていくのか？勤務先の医師や同僚の作業療法士らが応援してくれるものの、障害者が参加できるスポーツチームを作った経験のない私は、「本当にできるのだろうか」とその方法に悩んでいた。

そんな時に「やったらいいよ。意外とやれるから。楽しいよ」と既に愛媛県でチームを立ち上げていた木村医師らが、障害者スポーツチームの作り方、運営に関する知識を教えてくれた。愛媛県のチームは、その知識を龍馬クラブに教わったとの話を聞き、こうして見えないところでつながっていることを実感した。自分が想像したものがだんだんかたちへと変わっていき、フットサルで日本一を目指す CitRungs Tossa (シトラングス・トッサ) が誕生した。

それからは、怒涛のごとく時が流れた。初遠征は大雨のなか、片道6時間かけて会場へ行き滞在時間は約1時間半。しかし、そんな過酷な状況でも誰も体調を崩さない。好きなことはひとを元気にする。チームは、大会に出場するまでに成長し、2017年全国大会でフェアプレー賞に輝いた。チー

ムは“してもらう”だけでなく“する”存在に成長し、他の障害者スポーツや地域のイベントなどにスタッフ補助やボランティアとして参加した。一般の人たちとも一緒にボールを蹴った。公益財団法人日本レクリエーション協会の文部科学省委託事業「平成26年度健常者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業」(地域のスポーツクラブにおける障害者スポーツの導入)にも参加した。高知大学看護学部のオープンキャンパスにブースを出し、障害者スポーツを広報する機会もいただいた。これらの背景には、多くのひとの思いがあった。特に、障害者スポーツセンターの方々、総合型地域スポーツクラブ「総合クラブとさ」の皆様にはお世話になった。日本ソーシャルフットボール協会(精神障害フットボール競技の団体)の方々にもいろいろなことを教わり、多くの励ましもいただいた。そして、四国リーグの結成につながっていく。四国リーグの開催にあたっては4県の代表が集まって運営することとなり、四国は選抜チームで全国大会に出る。選抜チームのユニフォームは選手の選ばれた誇りでもある。選手・スタッフ・チームを応援してくれるひと。誰もが言葉や行動…いろいろなかたちでチームを築き上げ、支えている。私が高知を去った今も、チームの活動は続いている。

そして私は、今、広島県にいる。ここには既にフットサルのチームができており、文化が生まれている。どんな小さなことでもきっかけになる。結果にはつながらないこともあるかもしれないが、「すること」で私は元気になれるし、誰かとつながっていける。私にとってスポーツは「すること」の1つとして魅力的なのである。

【障害者スポーツにおける会員の関与実態調査(2019)】ご協力をお願い

協会の障害者スポーツに対する関心や関与等、状況を把握させていただくためのアンケートです。下記のURLもしくは、QRコードを使ってアクセスしてアンケートにご回答ください。ご協力をよろしくお願いいたします。(回答期限9月20日)

<https://forms.gle/6EW5iGLD3FHq2Qvy6>



総合事業 5分間 講読

「講読」とは「書物を読んで、その意味・内容などを解き明かすこと」とあります。作業療法士の実践を知り、自分なりの総合事業のあり方を考える道具としてご活用ください。

マネジメントを用いた 地域リハビリテーションと町づくり

南砺市民病院 地域リハビリテーション科

齋藤 洋平

1. はじめに

富山県南砺市の高齢化率は2019年4月末で37%を超えた。要介護認定率は18%台で留まっているが、今後は要介護者が増加すると予測されている。

こうしたなか、地域包括ケアシステムの推進のために、南砺市長が「南砺市5つのまちづくり規範」(図1)を策定してさまざまな事業を行っており、2019年4月から地域共生型社会に向けて住民主体での町づくりも開始された。

南砺市の「5つのまちづくり規範」

- 1、幸せに生涯を過ごせる協働のまちづくり
- 2、健康寿命を伸ばし、互いに支え合い、独居・老々世帯も安心して暮らせるまちづくり
- 3、地域包括医療・ケア(地域包括ケア)で家族の絆と地域の絆を結ぶまちづくり
- 4、介護が必要になっても、家族と共に安心して暮せ、自宅で穏やかな死を迎えられるまちづくり
- 5、一人暮らしの認知症の方が笑顔で暮らせるまちづくり

2014年11月 南砺市長

図1 南砺市の「5つのまちづくり規範」

2. 当地域におけるリハビリテーション の役割

南砺市民病院には、急性期病棟のほか、回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、通所リハビリテーションセンターがあり、訪問看護ステーション、在宅介護支援センターが併設されている。さらには、医療、保健、福祉に関わる行政機関が一堂に会する南砺市地域包括ケアセンターが隣接し、連携が図りやすい環境にある。

当院は地域リハビリテーション広域支援センターに指定されており、これまで地域リハビリテーションに関する全ての役割を担っていたが、2019年2月からは、主に難病や障害が重度の方の支援を中心にしている。主な事業として、年1回、官民間

わず、管理者が集う地域リハビリテーション運営会議を開催し、リハビリテーションに関するニーズや課題を聴取するとともに、リハビリテーションの役割や方向性などについて議論している。また、それらの周知・啓発を目的に、地域リハビリテーションに関わる医師、看護師、行政、介護支援専門員などを対象とした研修会を毎月開催している。

2019年2月には、地域包括ケアサポートセンターにも指定され(図2)、介護予防等に関する地域リハビリテーション活動支援事業等を担い、派遣調整の窓口としての機能を有している。当地域では、地域ケア個別会議が、いち早く開始され、県内のモデルとなっている。通いの場合は、住民主体の通所サービス開設に向け、現在、南砺市が週1サロンに力を入れており、そちらへの派遣調整を主に行っている。

毎年3月には、広域支援センターとサポートセンター共催で、地域リハビリテーション市民フォーラムを開催し、地域住民への地域リハビリテーションや介護予防の啓発を行っている。このフォーラムは、講演だけではなく、当事者や家族が壇上で体験や課題を述べたり、南砺市内のさまざまな事業所が、取り組みを紹介したりと、地域住民への啓発だけでなく、貴重な意見交換、連携の場となっている。

3. 作業療法士が主体的に関わっている 独自の取り組み

「認知症サポーターステップアップ講座」には標準のテキストがあるものの、認知症サポーターやキャラバンメイトが活動に至っていないとの課題があった。これを受け、2017年に富山県高齢福祉課からの依頼で、当院が県内各自治体の認知症担当者に対して研修会を行った。その後、南砺市でも同様の研修会を開催している。この事業の取り組みが、作業療法士が直接介入するばかりではなく、周りの方々と資源等をマネジメントする役割を担うきっかけとなった。

当初「高齢者サロン」には、認知症予防や健康増進のための依頼が多かった。しかし、何度か支援に

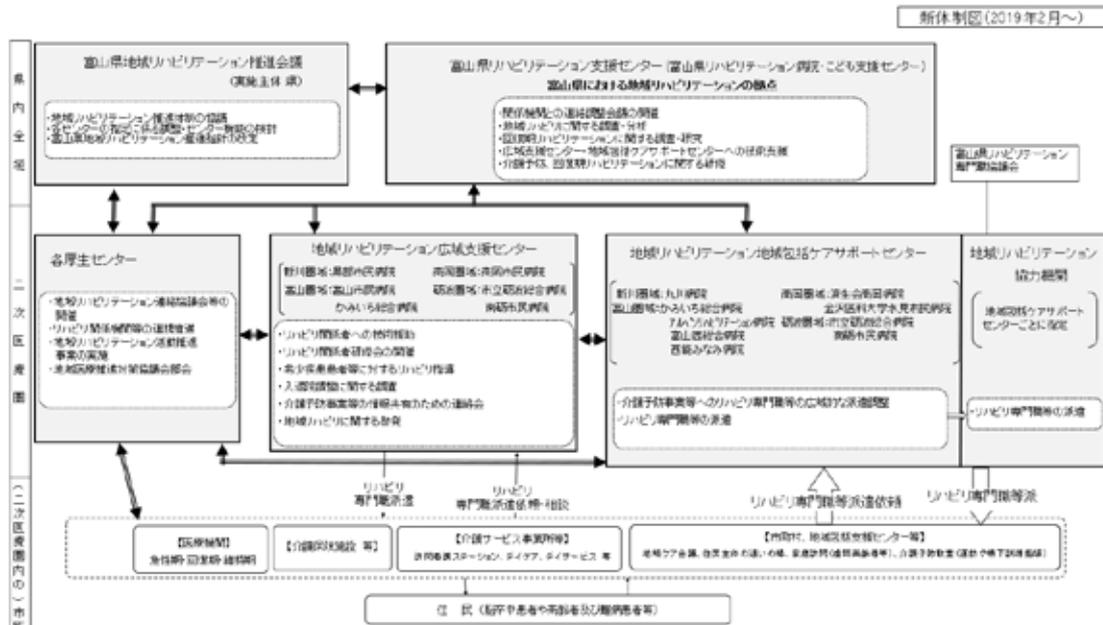


図2 地域リハビリテーション支援体制について

行ってわかったことは、参加者が目的や目標なく来ているといった方々が目立った。そこで、お世話する側と協議し、地域で参加者ができることを見つけ、何らかの役割をもつことを目標とした。たとえば、ある地域における、若者の都市部への流出、児童数の減少、社会的風潮からの世代間交流の希薄といった課題がみられたため、児童会行事に高齢者が世話役として参加することで介護予防を図ることも行っている。

「地域ケア個別会議」では、主体となる地域包括支援センターと運営についての意見交換を行いながら、事業展開にも努めている。これは、浮き彫りとなった個別課題、地域課題から、新たな事業、または既存の事業の活用につなげるということである。最近では、介護支援専門員やヘルパーと自宅に同行し、生活の場で介護方法や環境について考え、指導することが増えている。行政の性質上、当初は予算化されないため、十分な実績を残すまでは県からの予算を使った広域支援センター事業で賄い、自治体で予算化されれば、その対象として実施するといった流れで進めている。

「介護予防事業」は、市内の至る所で開催されていたが、2018年度より一部を当院が委託を受けたことにより、週1回地域包括ケアセンター内で、当院の医師やコメディカルを講師として行っている。年齢や要介護度、地域を限定せず開催しており、参加者は公共交通機関を利用している。しかし、当事業開始以前は、同所でバスの乗降ができなかったため、バスの路線と時間を一部変更してもらった。内容は、これまで当院で行ってきた「認知症予防」「動脈硬化予防」「ロコモ予防」「口腔機能低下予防」であり、参加者はいずれ「か」を受けるのではなく、いずれ「も」受けてもらう。相乗効果で認知機能、身体機能、口腔機能ともに、よい結果が得られている。当院が介護予防事業を受託するにあたり、「診察時しか外出しない方や引きこもりの方の外出機会」を

つくりだす「通所系サービス修了後の受け皿」として、医療機関や介護関連事業所と連携し、そのような方々の利用に繋げている。今後は、直接我々が事業に関わるのではなく、参加している方々が各々の地域で主体的に動いていただけるよう、ノウハウを伝えながら、マネジメント側でも関わりができればと考えている。

4. 作業療法士への期待

さまざまな地域で、さまざまな事業が行われているが、成功例に共通しているのは強靱なマネジメント力である。

作業療法士は、ICFを基にさまざまな視点から目の前の人や課題を捉え、解決策を導き出すことができ、マネジメント力に必要なジェネラリストの視点をもともと兼ね備えた職業であると考えられる。また、事業の継続には目新しさ、面白みといったことも求められる、これも当たり前のように提供することができる。

作業療法士自身が1対1から1対多に向けた能力を身に付けられるよう、今後とも取り組んでいければと思う。

地域包括ケアシステム推進委員会
佐藤孝臣 理事より一言

南砺市は先進的に地域包括ケアシステムに取り組んでいる自治体である。今回の報告も興味深い内容であり他自治体の参考になる。そのなかで全ての取り組みに作業療法士が関わることは通常業務と並行しては難しい場面もある。しかし齋藤氏が述べている「マネジメント力に必要なジェネラリストの視点」この能力を作業療法士がどう発揮するかで今後の地域包括ケアシステムは大きく前進する可能性がある。我々の目標であると同時に課題でもある。

生涯教育制度に関する重要なお知らせ

教育部 生涯教育委員会 / 教育関連審査委員会

2019年度 専門作業療法士および 認定作業療法士の資格認定について

2019年度の専門作業療法士資格認定審査および認定作業療法士資格再認定審査を、次の要領にて実施いたします。該当される会員の方は、準備ならびに必要な手続きをお願いいたします。詳細は、協会ホームページを参照ください。

2019年度 専門作業療法士 資格認定審査のお知らせ
申請資格
各分野において取得要件を満たし（読み替え要件も含む）、次の各項目の条件を満たす会員である。 ①作業療法士免許を有すること。 ②当該年度の年会費を納めていること。 ③申請時および試験時ともに認定作業療法士であること。
申請の流れ
1. 協会ホームページより、「2019年度専門作業療法士資格認定審査申請書」をダウンロードし、必要事項を記入する。また、写真を貼付する。 ↓ 2. 添付書類等を準備する。 【添付書類】各分野の手引きにある申請に必要な書類を用意する。 ①作業療法士免許証の写し、②当該年度の電子会員証の写し、③認定作業療法士認定証の写し（有効期限をご確認ください）、④生涯教育受講記録、⑤専門作業療法士研修生涯教育受講記録、⑥所属士会の会員歴証明証、⑦分野別申請書類一式、⑧読み替えがある分野は読み替え申請書、⑨審査料（5,000円）の振込済み証明書の写し ↓ 3. <u>2019年9月1日（日）～10月31日（木）（当日消印有効）</u> の期間に、上記申請に添付書類等をそえて、協会事務局へ郵送する（レターパックプラス520を推奨）。
審査概要
1) 日 時：2020年2月8日（土） 12:00～14:00（11:00開場） 2) 会 場：日本作業療法士協会事務局（予定） 3) 審査料：5,000円（振込先 郵便振替口座：00120-7-146118 生涯教育講座） 4) 方 法：筆記試験（四肢択一）120分 5) 当日持参するもの：受験票、時計、筆記用具 （※運転免許証等、本人を確認できるものをご持参ください。確認する場合があります。）

ご注意！ 読み替えによる専門作業療法士取得の申請に関して

専門作業療法士訪問作業療法士分野の読み替え申請は、2020年度が最後です。読み替え要件を満たす会員の方は、2019年度・2020年度に必ず申請いただきますようお願いいたします。詳細は、協会ホームページの専門作業療法士取得の手引きをご確認ください。

2019年度 認定作業療法士 資格再認定審査のお知らせ

★ ATTENTION

認定作業療法士資格再認定審査（試験）は隔年の実施です。
受験を検討されている方は、今年度受験してください。

申請資格

- 1) 2019年度認定作業療法士資格再認定審査を受験できる会員とは、認定作業療法士の有効期限が2017年12月31日までであった会員であり、且つ次の各項の条件を満たす会員である。
 - ①作業療法士免許を有すること
 - ②当該年度の年会費を納めていること

(注意：認定作業療法士資格の有効期限が2018年2月28日以降の方は猶予期限内にあるため受験できません)

申請の流れ

1. 協会ホームページより、「2019年度認定作業療法士資格再認定審査申請書」をダウンロードし、必要事項を記入する。また、写真を貼付する。
↓
2. 添付書類等を準備する。
【添付書類】①当該年度の電子会員証の写し、②所属士会の会員歴証明証、③認定作業療法士の認定証の写し、
④審査料（2万円）振込済み証明書の写し
↓
3. 2019年11月1日（金）～12月10日（火）（当日消印有効）の期間に、上記申請に添付書類等をそえて、協会事務局へ郵送する。

審査概要

- 1) 日 時：2020年2月8日（土） 12：00～14：00（11：00開場）
 - 2) 会 場：日本作業療法士協会事務局（予定）
 - 3) 審査料：2万円（振込先 郵便振替口座：00120-7-146118 生涯教育講座）
 - 4) 方 法：筆記試験（四肢択一）120分
 - 5) 当日持参するもの：受験票、時計、筆記用具
(※運転免許証等、本人を確認できるものをご持参ください。確認する場合があります。)
- ※該当する会員への個別の案内はいたしません。

認定作業療法士を目指すあなたへ

教育部 生涯教育委員会 / 認定作業療法士制度班

認定作業療法士の『臨床実践能力試験』の実施について

認定作業療法士制度の2018年度改定に伴い、臨床実践能力試験に合格すると事例報告の1例として認められることとなりました。

2019年度の認定作業療法士の臨床実践能力試験を下記の要領で実施します。

認定作業療法士の臨床実践能力試験のお知らせ	
試験概要	
1) 日 時：2020年2月9日(日) 12:00～14:00 (11:00開場) 2) 会 場：日本作業療法士協会事務局 3) 受験料：5,000円 (郵便振替口座 00120-7-146118 生涯教育講座) 4) 定 員：30名 (先着順) 5) 方 法：筆記試験 (四肢択一/四肢択二) 120分 6) 当日持参するもの：受験票、時計、筆記用具 (※運転免許証等、本人を確認できるものをご持参ください。確認する場合があります。)	
受験要件	
認定作業療法士取得共通研修ならびに選択研修が修了していること 申請時および試験時ともに基礎研修修了有効期限内にあること 当該年度の年会費を納めていること	
申請の流れ	
1. 協会ホームページより、「2019年度 認定作業療法士 臨床実践能力試験 申請書」をダウンロードする。 必要事項を記入し、写真を貼付する。 ↓	
2. 添付書類等を準備する。 【添付書類】 ①当該年度の電子会員証の写し (振り込みの郵便局等金融機関の領収証の写しでも可) ②生涯教育受講記録 ③申請者の返信先明記済の94円切手を貼付した返信用封筒 (長形3号) ↓	
3. <u>2019年11月1日(金)～12月10日(火)(当日消印有効)</u> の期間に、上記申請書に添付書類等をそえて、協会事務局へ郵送する。 詳細は、協会ホームページでご確認ください。	



2019年度 協会主催研修会案内

※赤字は先月号よりの更新・変更です。

認定作業療法士取得研修 共通研修			
講座名	日 程(予定も含む)	開催地(予定も含む)	定員
管理運営④	2019年9月28日(土)～9月29日(日)	東京：台東区 日本作業療法士協会事務局	45名
管理運営⑤	2019年10月26日(土)～10月27日(日)	東京：台東区 日本作業療法士協会事務局	45名
管理運営⑥	2019年11月23日(土)～11月24日(日)	大阪：大阪市 新大阪丸ビル新館	45名
管理運営⑦	2019年11月30日(土)～12月1日(日)	東京：豊島区 日本リハビリテーション専門学校	45名
管理運営⑧	2019年12月21日(土)～12月22日(日)	大阪：大阪市 新大阪丸ビル新館	45名
教育法④	2019年9月21日(土)～9月22日(日)	大阪：大阪市 新大阪丸ビル新館	45名
教育法⑤	2019年10月5日(土)～10月6日(日)	石川：金沢市 金沢勤労者プラザ	45名
教育法⑥	2019年11月2日(土)～11月3日(日)	東京：荒川区 首都大学東京 荒川キャンパス	45名
教育法⑦	2019年12月7日(土)～12月8日(日)	広島：広島市 広島市南区民文化センター	45名
教育法⑧	2020年1月11日(土)～1月12日(日)	東京：台東区 日本作業療法士協会事務局	45名
研究法②	2019年9月14日(土)～9月15日(日)	東京：台東区 日本作業療法士協会事務局	40名
研究法③	2019年10月12日(土)～10月13日(日)	東京：台東区 日本作業療法士協会事務局	40名
研究法④	2019年11月9日(土)～11月10日(日)	福岡：福岡市内 調整中	40名
研究法⑤	2019年12月14日(土)～12月15日(日)	東京：台東区 日本作業療法士協会事務局	40名

認定作業療法士取得研修 選択研修			
講座名	日 程(予定も含む)	開催地(予定も含む)	定員
身体障害の作業療法④ 急性期から在宅までの対象者への作業療法を考える	2019年10月12日(土)～10月13日(日)	広島：広島市 広島大学 霞キャンパス	40名
身体障害の作業療法⑤ 急性期から在宅までの対象者への作業療法を考える	2019年10月26日(土)～10月27日(日)	東京：三鷹市 杏林大学 井の頭キャンパス	40名
身体障害の作業療法⑥ 急性期から在宅までの対象者への作業療法を考える	2019年11月23日(土)～11月24日(日)	愛知：名古屋市 名古屋市中小企業振興会館	40名
身体障害の作業療法⑦ 急性期から在宅までの対象者への作業療法を考える	2019年11月9日(土)～11月10日(日)	大阪：大阪市 大阪写真会館	40名
身体障害の作業療法⑧ 急性期から在宅までの対象者への作業療法を考える	2020年1月18日(土)～1月19日(日)	福岡：福岡市 天神チクモビル小ホール	40名
老年期障害の作業療法③ 高齢者に対する作業療法	2019年10月5日(土)～10月6日(日)	広島：広島市 広島市南区民文化センター	40名
老年期障害の作業療法④ 高齢者に対する作業療法	2019年11月23日(土)～11月24日(日)	福岡：福岡市 福岡医健・ スポーツ専門学校第3校舎	40名

精神障害の作業療法② 急性期～維持期の実践マネジメント(事例検討)	2019年11月2日(土)～11月3日(日)	東京：台東区 日本作業療法士協会事務局	30名
発達障害の作業療法② 発達障害をもつ方のライフサイクルから作業療法を学ぶ	2019年11月30日(土)～12月1日(日)	東京：台東区 日本作業療法士協会事務局	30名

専門作業療法士取得研修					
講座名		日 程(予定も含む)		開催地(予定も含む)	定員
高次脳機能障害	基礎Ⅰ	2019年10月19日(土)～10月20日(日)		大阪：吹田市 JEC日本研修センター 江坂	40名
	基礎Ⅲ	2019年11月23日(土)～11月24日(日)		東京：台東区 日本作業療法士協会事務局	40名
	基礎Ⅳ	2019年12月14日(土)～12月15日(日)		大阪：吹田市 JEC日本研修センター 江坂	40名
	応用Ⅰ	2020年2月15日(土)～2月16日(日)		大阪：大阪府内 調整中	20名
精神科急性期	基礎Ⅷ	2019年10月5日(土)～10月6日(日)		東京：台東区 日本作業療法士協会事務局	30名
	応用Ⅰ	2019年11月9日(土)～11月10日(日)		東京：台東区 日本作業療法士協会事務局	20名
	(事例提供者の場合)				
	応用Ⅱ	2019年11月9日(土)～11月10日(日)			
(事例提供をしない方の場合)					
摂食嚥下	基礎Ⅳ	2019年11月9日(土)～11月10日(日)		大阪：大阪市 新大阪丸ビル新館	40名
	応用Ⅳ	2020年1月25日(土)～1月26日(日)		東京：台東区 東京文具共和会館	20名
手外科	詳細は日本ハンドセラピー学会のホームページをご覧ください。				
特別支援教育	基礎Ⅰ-1	2019年10月5日(土)～10月6日(日)		東京：台東区 東京文具共和会館	40名
	基礎Ⅱ-2	2019年11月23日(土)～11月24日(日)		大阪：大阪市 新大阪丸ビル新館	40名
認知症	基礎Ⅱ	2019年12月21日(土)～12月22日(日)		大阪：大阪府内 調整中	40名
	基礎Ⅳ	2020年2月1日(土)～2月2日(日)		大阪：大阪府内 調整中	40名
	応用Ⅰ	2020年1月26日(日)		大阪：大阪府内 調整中	40名
	応用Ⅸ	2020年1月25日(土)		大阪：大阪府内 調整中	40名
福祉用具	基礎Ⅰ	2020年1月25日(土)～1月26日(日)		大阪：大阪市 株式会社ウィズ	40名
	基礎Ⅱ	調整中		東京：東京都内 調整中	40名
	応用Ⅰ	2019年11月16日(土)～11月17日(日)		東京：豊島区 日本リハビリテーション専門学校	20名
訪問作業療法	基礎Ⅴ	2019年11月30日(土)～12月1日(日)		東京：台東区 東京文具共和会館	40名
がん	基礎Ⅲ-2	2019年12月14日(土)～12月15日(日)		神奈川：横浜市 新横浜ホール	40名
就労支援	基礎Ⅲ	2019年11月16日(土)～11月17日(日)		大阪：大阪市 新大阪丸ビル新館	40名

作業療法重点課題研修			
講座名	日 程(予定も含む)	開催地(予定も含む)	定員
運転と地域での移動手段に関する研修会	2019年9月28日(土)～9月29日(日)	宮城：仙台市 PARM-CITY131 貸会議室 ANNEX 多目的ホール	80名
	2020年2月1日(土)～2月2日(日)	福岡：福岡市 国際医療福祉大学 福岡キャンパス2号館	80名
精神科にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた作業療法研修会	2019年11～12月調整中	静岡：静岡市内 調整中	60名
グローバル活動入門セミナー 海外で働く、学ぶ、生活する ～作業療法士が活躍できる海外の選択肢～	2019年11月10日(日)	大阪：池田市 箕面学園福祉保育専門学校 池田キャンパス	30名
グローバル活動セミナー 海外で働く、学ぶ、生活する ～作業療法士の国際協力・交流活動と障害者スポーツ～	2020年1月26日(日)	東京：台東区 日本作業療法士協会事務局	30名
生活行為向上マネジメント指導者研修	2020年2月29日(土)～3月1日(日)	兵庫：神戸市 甲南女子大学	40名

臨床実習指導者講習会			
講座名	日 程(予定も含む)	開催地(予定も含む)	定員
厚生労働省指定 臨床実習指導者講習会(青森)	2019年10月26日(土)～10月27日(日)	青森：弘前市 弘前医療福祉大学	100名
厚生労働省指定 臨床実習指導者講習会(大阪)	2019年11月30日(土)～12月1日(日)	大阪：大阪市 森ノ宮医療大学	100名
厚生労働省指定 臨床実習指導者講習会(沖縄)	2019年12月21日(土)～12月22日(日)	沖縄：島尻郡 沖縄リハビリテーション福祉学院	100名
臨床実習指導者実践講習会	2020年2月15日(土)～2月16日(日)	神奈川：横浜市 横浜リハビリテーション専門学校	60名

がんのリハビリテーション研修会			
講座名	日 程(予定も含む)	開催地(予定も含む)	定員
がんのリハビリテーション研修会	詳細・申込み方法は後日協会ホームページに掲載いたします。		

認定作業療法士研修			
講座名	日 程(予定も含む)	開催地(予定も含む)	定員
認定作業療法士研修会 ～指導的職員・職場リーダー育成講座～	2020年2月29日(土)～3月1日(日)	東京：台東区 日本作業療法士協会事務局	40名

生涯教育講座案内【都道府県作業療法士会】

現職者選択研修						
講座名	日程	主催県士会	会場	参加費	定員	詳細・問合せ先
精神障害	2019年8月31日(土)	秋田県	秋田大学医学部保健学科	4,000円	50名	詳細は秋田県作業療法士会ホームページに掲載いたします。
精神障害	2019年8月31日(土)	広島県	広島大学 霞キャンパス 保健学科棟	4,000円	80名	詳細は決まり次第、広島県作業療法士会ホームページに掲載いたしますのでご参照ください。
身体障害	2019年9月1日(日)	石川県	未定	4,000円	60名	詳細は決まり次第、石川県作業療法士会ホームページにて掲載いたしますので、ご参照ください。
* 身体障害	2019年9月1日(日)	鹿児島県	鹿児島大学 桜ヶ丘キャンパス	4,000円	80名	詳細は鹿児島県作業療法士協会ホームページ、研修案内をご参照ください。
* 身体障害	2019年9月1日(日)	京都府	佛教大学 二条キャンパス	4,000円	100名	詳細は京都府作業療法士会ホームページを参照してください。
* 老年期障害	2019年9月15日(日)	栃木県	鹿沼市民情報センター	4,000円	50名	詳細は栃木県作業療法士会ホームページに掲載いたします。
* 身体障害	2019年9月21日(土)	岩手県	高校教育会館	4,000円	70名	詳細は岩手県作業療法士会ホームページに掲載いたします。
* 精神障害	2019年9月29日(日)	新潟県	立川総合病院	4,000円	50名	詳細は新潟県作業療法士会ホームページに掲載予定です。
身体障害	2019年10月6日(日)	青森県	弘前医療福祉大学	4,000円	50名	詳細は青森県作業療法士会ホームページに掲載いたします。
老年期障害	2019年10月6日(日)	福井県	福井赤十字病院	4,000円	50名	詳細は決まり次第、福井県作業療法士会ホームページに掲載いたしますのでご参照ください。
* 老年期障害	2019年10月6日(日)	高知県	高知リハビリテーション 専門職大学	4,000円	40名	詳細は決まり次第、高知県作業療法士会ホームページに掲載いたします。
* 身体障害	2019年10月6日(日)	山口県	山口県立総合医療センター	4,000円	80名	詳細は(一社)山口県作業療法士会ホームページに掲載予定です。
* 身体障害	2019年10月20日(日)	山形県	山形県立保健医療大学	4,000円	80名	詳細は山形県作業療法士会ホームページに掲載いたします。
* 身体障害	2019年10月20日(日)	茨城県	茨城県立医療大学	4,000円	60名	詳細は決まり次第、茨城県作業療法士会ホームページにて掲載いたしますので、ご参照ください。
精神障害	2019年11月10日(日)	大阪府	大阪医療福祉専門学校	4,000円	70名	詳細は大阪府作業療法士会ホームページに掲載予定です。
* 身体障害	2019年11月10日(日)	三重県	市立四日市病院	4,000円	50名	詳細は三重県作業療法士会ホームページを参照してください。
* 老年期障害	2019年11月16日(土)	北海道	未定	4,000円	60名	詳細は北海道作業療法士会のホームページに掲載いたします。
身体障害	2019年11月24日(日)	千葉県	未定	4,000円	50名	詳細は決まり次第、千葉県作業療法士会ホームページに掲載いたしますのでご参照ください。
発達障害	2019年12月1日(日)	石川県	金沢こども医療福祉センター	4,000円	40名	詳細は決まり次第、石川県作業療法士会ホームページにて掲載いたしますので、ご参照ください。
* 身体障害	2019年12月1日(日)	北海道	未定	4,000円	70名	詳細は北海道作業療法士会のホームページに掲載いたします。
老年期障害	2019年12月8日(日)	奈良県	すみれホール (近鉄大和八木駅から徒歩5分)	4,000円	60名	詳細:(一社)奈良県作業療法士会ホームページ 問合せ先:秋津鴻池病院リハビリテーション部 木納(きのう)潤一 電話:0745-63-0601
* 身体障害	2019年12月15日(日)	岡山県	川崎リハビリテーション学院	4,000円	100名	詳細は決まり次第、岡山県作業療法士会ホームページに掲載いたしますのでご参照ください。

*は新規掲載分です。

■ 詳細は、日本作業療法士協会のホームページをご覧ください。

■ 協会主催研修会の問い合わせ先 電話: 03-5826-7871 FAX: 03-5826-7872 E-mail: ot-kenshu@jaot.or.jp

刑事司法領域における作業療法への期待に応えるために 札幌刑務支所見学会のご案内

近年、刑務所等の矯正施設において作業療法士による生活訓練や創作活動・運動療法等の社会復帰プログラムが行われるようになり、これらの実践が評価され、刑事司法領域における作業療法士への期待はさらに高まっております。司法領域により多くの会員が関心をもち、関与する端緒となるよう、協会は昨年度から刑務所の見学会を開催しています。このたび昨年度の府中刑務所、大阪刑務所・大阪医療刑務所に引き続き第3回目として、札幌刑務支所（女子刑事施設）の見学会を下記の通り企画いたしました。当該領域に関心のある会員の方はぜひご参加ください。

- 日 時** 2019年9月20日（金） 13:30～16:00（予定）
場 所 札幌刑務支所（札幌市東区東苗穂2条1-5-2）
対 象 日本作業療法士協会会員
第1回（府中）、第2回（大阪）見学会参加者以外の方を優先させていただきます
定 員 30名（先着順）
参 加 費 無料
申し込み 協会ホームページ ▶ 会員向け情報 ▶ 札幌刑務支所見学会のご案内 から申込フォーム
にアクセスし必要事項を入力してください
参加可否と詳細のご連絡は追って協会事務局よりメールをお送りします
- 申込締切** 2019年9月4日（水）
※お申し込み受け付けは、先着順となりますので申込み締切日前に募集を終了することがございます。あしからずご了承ください。
- 問い合わせ** 日本作業療法士協会事務局（制度対策部）
ot_seido@jaot.or.jp

催物・企画案内

兵庫医科大学リハビリテーション医学教室主催セミナー

①実践CⅠ療法講習会

日 時：2019.9/14(土) 10:00～16:00

お申込み：詳細は下記のURLをご覧ください
<http://craseed.sakura.ne.jp/seminar/2019/seminar20190914.html>

②脳卒中予後予測セミナー

日 時：2019.9/15(日) 10:00～16:00

お申込み：詳細は下記のURLをご覧ください
<http://craseed.sakura.ne.jp/seminar/2019/seminar20190915.html>

③リハビリテーションのための嚥下障害と栄養

日 時：2019.9/21(土) 10:00～16:00

お申込み：NPO法人CRASEED（共催）のHPよりお申し込みください。
<http://craseed.sakura.ne.jp/seminar/2019/seminar20190921.html>

④道免和久教授が伝授する「脳卒中リハビリテーションの達人になるために」

日 時：2019.9/22(日) 10:00～16:00

お申込み：詳細は下記のURLをご覧ください
<http://craseed.sakura.ne.jp/seminar/2019/seminar20190922.html>

①～④ともに

会 場：兵庫医科大学（兵庫県西宮市／阪神本線武庫川駅）

お問合せ：兵庫医大リハビリテーション医学教室 (<http://www.neuroreha.jp>)

参 加 費：12,000円



学術誌『作業療法』第39巻

第1号～第6号（2020年2月～12月の偶数月発行）

紙媒体の配付希望受付について

2020年発行の学術誌『作業療法』第39巻の紙媒体の配付希望申込みを受け付けます。今巻同様、第39巻も電子媒体による発行とともに、希望される会員には紙媒体での送付を無料で行います。

紙媒体配付希望会員は、下記 URL より入り、必要事項を記入のうえ、Web でお申込みください。

<https://forms.gle/pm8NU3q5stZyTRSs7>



受付期間は、2019年8月1日（木）～2019年10月31日（木）となります。

※現在、紙媒体での配付を受けている会員の皆様も、第39巻を希望する場合には、あらためてこの申込みの手続きが必要となります。自動継続とはなりませんのでご注意ください。

※申込みをされますと自動返信メールが配信されますので、そのメールは大切に保管しておいてください。



地域包括ケアシステム参画の手引き ～作業療法士に求められる生活行為向上の視点を用いて～ 発刊のお知らせ

地域包括ケアシステム推進委員会



この度、当委員会が編集・執筆を担当した『地域包括ケアシステム参画の手引き～作業療法士に求められる生活行為向上の視点を用いて～』（以下、手引き）を発刊しました。

これは、2017年度で活動を終了した生活行為向上マネジメント推進プロジェクト委員会からの移管項目として、主に地域ケア会議と介護予防・日常生活支援総合事業（以下、総合事業）というフィールドにおいて、作業療法士の専門性である「生活行為向上の視点」をどう具体的に活用していくか、そして、どう作業療法士ニーズの創出・拡大を図っていくか、という切り口で編集し、発刊に至ったものです。

個人にとってのADL・IADL、つまり「生活行為」の課題解決の一番の助言者として国から期待されている私たち作業療法士が、MTDLPの概念やツールの活用を念頭に置きながら、どのような場面（事業）でどのような助言・指導・支援ができるのかを整理し、それらをできるだけ具体的に示した内容となっています。すでに地域ケア会議や総合事業に関わっている方々はもちろんのこと、これから関わり得る方々や、各都道府県士会単位で行う人材育成研修会の資料としても活用できますので、是非ご一読ください。

実際には、地域ごとにさまざまな事例や地域課題があり、作業療法士が求められるすべてにお応えできるものではありませんが、この手引きをひとつの

ツールとしてご活用いただき、協会・各都道府県士会・各会員間の一層の有機的連携のもとに、各市町村における作業療法“士”ニーズの拡大を図るの一助となることを願っています。

※本手引きは下記 URL からダウンロードできます

<http://www.jaot.or.jp/chiikihokukatu>

【内 容】

- I. 地域包括ケアシステム参画に必要な生活行為向上
- II. 多（他）職種、行政、地域との連携のための関係づくり
 1. 行政・地域包括支援センターとの連携について
 2. 地域ケア会議・総合事業の評価と政策形成への提言
 3. 個人のもつ課題と地域がもつ課題の関係性と政策提言
- III. 地域ケア会議と生活行為向上
 1. 自立支援型ケアマネジメントと地域ケア会議
 2. 地域ケア会議への作業療法士の関わり方
- IV. 介護予防・日常生活支援総合事業と生活行為向上
 1. 介護予防・生活支援サービス事業への関わりと生活行為向上
 2. 一般介護予防事業における作業療法士の役割
- V. 生活行為向上のための生活課題分析とその助言のポイント
 1. 総論
 2. ADL 編（食事・更衣・入浴・排泄・整容）
 3. IADL、QOL 編（掃除・洗濯・調理・買物・QOL）

求められる職種であり続けるためには！

日本作業療法士連盟 事務局 次長 関本 充史



団塊の世代が後期高齢（75歳以上）を迎える2025年は間近であり、より一層少子・高齢化社会が加速し、2040年には働き盛り世代1.5人が高齢者1人を支える社会になります。それに対応するために、各自治体において地域包括ケアシステムの具現化が推進され、自立支援に向けた体制づくりが求められています。それには、住民とともに自助力・互助力を高め、共助力・公助力とも組み合わせた地域のケア体制を整備することが必要です。

日本作業療法士協会では、2008年より生活行為向上マネジメント関連事業に取り組み、地域ケア会議や自立支援事業でもこの観点が盛り込まれてきています。対象となる方の「やりたいこと」や「困りごと」「諦めてしまったこと」に目を向けて生活機能に着眼し、活動と参加の幅を広げていくために、具体的な解決手段を提示することができ、生活行為向上マネジメントの視点で関わるができるのは作業療法士が他の職種と違う点です。私自身、大阪府アドバイザーとして地域ケア会議構築に向けて、自治体と一緒に仕事をさせていただいています。そのなかで実感することは、個別ケースの課題から

地域課題を導き出し、その具体的手段を構築し、支援できる職種を自治体・行政は求めているということです。臨床現場で役立てる職種であることを実践・実証することは重要です。それだけではなく、求められる職種であるために、先を見据えたアプローチも必要です。そのためにも、日本作業療法士協会が厚生労働省へ作業療法士の活用に関する要望書を提出し、後押しするように国会へも働きかけていくことが重要です。職能団体としての声、政治団体としての声を双方からあげていくには、その団体の大きさ、つまり会員数の多さが必要となります。若い世代だからこそ、自分たちの未来を切り開くだけでなく、国民・市民のためにも日本作業療法士協会・各都道府県作業療法士会、日本作業療法士連盟・各都道府県作業療法士連盟へ加入し、一緒に声をあげていければと思います。まだ各都道府県作業療法士連盟が設立されていない都道府県もあります。連盟を立ち上げようと志の高い方々がおられましたら、日本作業療法士連盟へご連絡いただければ、そのご支援をいたします。



雑誌や書籍の印刷というものは、大型の印刷機を使って片面8ページ、両面で16ページを一度にまとめて刷っていくことが基本ですので、全体のページ数が16の倍数になるのが理想です。原稿の文字数が依頼文字数より多すぎたり少なすぎたりした場合もそうですが、大きな図・表が入るためにページ数が超過したり、あるいは飛び込みの記事が入ったりすると、その都度、台割表（何ページに何の記事が入るか把握する表）とにらめっこし、次号に掲載を延期できるものはないか、空いたページに掲載できる記事はないかとパズルのピースをはめ込むように考えます。そのような事情で今号ではご紹介できませんでしたが、2019年度作業療法啓発ポスターが完成し、都道府県士会に配布されました。今年は、「定義編」「歴史編」の2種類を作成。紹介記事よりひとあし早く完成してしまいましたが、右ページに載せたのが「定義編」の機関誌掲載バージョンです。啓発ポスターについては次号でご案内する予定です。

（機関誌編集委員会・編集スタッフ）

本誌に関するご意見、お問い合わせがございましたら下記までご連絡ください。

E-mail kikanshi@jaot.or.jp

■ 2018年度の確定組織率

64.9%（会員数 58,234 名／有資格者数 89,724 名^{*}）

^{*} 2019年度は会員数がまだ確定していないため組織率の算定ができません。当協会の最新の組織率としては、理事会の承認を得て確定した2018年度の会員数に基づくこの数値をご利用ください。

■ 2019年7月1日現在の作業療法士

有資格者数 94,255 名^{*}

会員数 60,880 名

社員数 210 名

認定作業療法士数 1,039 名

専門作業療法士数（延べ人数） 112 名

■ 2019年度の養成校数等

養成校数 193 校（202 課程）

入学定員 7,650 名

^{*} 有資格者数の数値は、過去の国家試験合格者数を単純に累計した数に、本会が把握し得た限りでの外国で取得した免許から日本国免許へ切り換えた者を加え、死亡退会者数（230 名）を除いた数として示していますが、免許証の未登録、取り消し、本会が把握し得ない死亡その他の理由による消除の結果生じた減数分は算入されていません。

日本作業療法士協会誌（毎月1回発行）

第89号 2019年8月15日発行

□ 広報部 機関誌編集委員会

委員長：香山 明美

委員：岡本 宏二、磯野 弘司、野崎 智仁、岡村 忠弘、米井 浩太郎、浅倉 恵子、山口 理貴

編集スタッフ：宮井 恵次、大胡 陽子、谷津 光宏

表紙デザイン：渡辺美知子デザイン室 / 制作・印刷：株式会社サンワ

発行所 〒111-0042 東京都台東区寿 1-5-9 盛光伸光ビル

一般社団法人 日本作業療法士協会（TEL.03-5826-7871 FAX.03-5826-7872）

■ 協会ホームページアドレス <http://www.jaot.or.jp/>

□ 求人広告：1/4 頁 1 万 3 千円（賛助会員は割引あり）

明日に、 つづく。

私たち作業療法士は、
少しずつ着実に
歩みを進めてきました。
社会の変化と
求められる役割に応じて
定義を見直し、
これからもさらなる
挑戦を続けます。

作業療法は、人々の健康と幸福を
促進するために、医療、保健、福祉、教育、
職業などの領域で行われる、
作業に焦点を当てた治療、指導、援助である。
作業とは、対象となる人々にとって目的や
価値を持つ生活行為を指す。

作業療法は、
「人は作業を通して健康や幸福になる」という
基本理念と学術的根拠に基づいて行われる。

作業療法の対象となる人々とは、
身体、精神、発達、高齢期の障害や、環境への
不応により、日々の作業に困難が生じている、
またはそれが予測される人や集団を指す。

作業には、
日常生活活動、家事、仕事、趣味、遊び、
対人交流、休養など、人が営む生活行為と、
それを行うのに必要な心身の活動が含まれる。

作業には、
人々ができるようになりたいこと、できる必要が
あること、できることが期待されていることなど、
個別的な目的や価値が含まれる。

作業に焦点を当てた実践には、
心身機能の回復、維持、あるいは低下を予防する
手段としての作業の利用と、その作業自体を練習し、
できるようにしていくという目的としての
作業の利用、およびこれらを達成するための環境への
働きかけが含まれる。



